

◎所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本  
国政府とアメリカ合衆国政府との間の条約

(略称) 米国との租税 (所得) 条約

平成	十五年十一月	六日	ワシントンで署名
平成	十六年三月	十九日	国会承認
平成	十六年三月二十六日		批准の閣議決定
平成	十六年三月三十日		東京で批准書交換
平成	十六年三月三十日		公布及び告示
平成	十六年三月三十日		(条約第二号及び外務省告示第一一三号) 効力発生

目次

前文	.....	二五三五
第一条 対象となる者	.....	二五三五
第二条 対象となる租税	.....	二五三七
第三条 一般的定義	.....	二五三七
第四条 居住者	.....	二五四〇
第五条 恒久的施設	.....	二五四四
第六条 不動産所得	.....	二五四六
第七条 事業利得	.....	二五四六
第八条 国際運輸	.....	二五四七

ページ

第九 条	関連企業	二五四八
第十 条	配当	二五四九
第十一 条	利子	二五五〇
第十二 条	使用料	二五五八
第十三 条	譲渡収益	二五五九
第十四 条	給与所得	二五六一
第十五 条	役員報酬	二五六二
第十六 条	芸能人	二五六二
第十七 条	退職年金及び保険年金	二五六二
第十八 条	政府職員	二五六三
第十九 条	学生	二五六四
第二十 条	教授	二五六四
第二十一 条	その他の所得	二五六五
第二十二 条	特典の制限	二五六六
第二十三 条	二重課税の除去	二五七〇
第二十四 条	無差別待遇	二五七二
第二十五 条	相互協議手続	二五七三
第二十六 条	情報の交換	二五七五
第二十七 条	徴収共助	二五七六
第二十八 条	外交使節団又は領事機関の構成員	二五七六
第二十九 条	協議の要請	二五七七
第三十 条	発効	二五七七
第三十一 条	終了	二五七九

末文	二五七九
○議定書	二五八一
○所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の条約に関する交換公文	二五八二
日本側書簡	二五八六
米国側書簡	二五九〇

所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の条約

日本国政府及びアメリカ合衆国政府は、

所得に対する租税に関し、二重課税を回避し及び脱税を防止するための新たな条約を締結することを希望して、

次のとおり協定した。

第一条

1 この条約は、この条約に別段の定めがある場合を除くほか、一方又は双方の締約国の居住者である者にのみ適用する。

2 この条約の規定は、次のものによつて現在又は将来認められる非課税、免税、所得控除、税額控除その他の租税の減免をいかなる態様においても制限するものと解してはならない。

(a) 一方の締約国が課する租税の額を決定するに当たつて適用される当該一方の締約国の法令

(b) 両締約国間の他の二国間協定又は両締約国が当事国となっている多数国間協定

3 (a) 2 (b)の規定にかかわらず、

(i) この条約の解釈又は適用（ある措置がこの条約の適用の対象となるか否かを含む。）に関して生ずる問題は、第二十五条の規定に従つてのみ解決される。

CONVENTION BETWEEN  
THE GOVERNMENT OF JAPAN AND  
THE GOVERNMENT OF THE UNITED STATES OF AMERICA  
FOR THE AVOIDANCE OF DOUBLE TAXATION  
AND THE PREVENTION OF FISCAL EVASION  
WITH RESPECT TO TAXES ON INCOME

The Government of Japan and the Government of the  
United States of America,

Desiring to conclude a new Convention for the  
avoidance of double taxation and the prevention of fiscal  
evasion with respect to taxes on income,

Have agreed as follows:

ARTICLE 1

1. This Convention shall apply only to persons who are  
residents of one or both of the Contracting States, except  
as otherwise provided in the Convention.

2. The provisions of this Convention shall not be  
construed to restrict in any manner any exclusion,  
exemption, deduction, credit, or other allowance now or  
hereafter accorded:

(a) by the laws of a Contracting State in the  
determination of the tax imposed by that  
Contracting State; or

(b) by any other bilateral agreement between the  
Contracting States or any multilateral agreement  
to which the Contracting States are parties.

3. (a) Notwithstanding the provisions of subparagraph  
(b) of paragraph 2:

(i) any question arising as to the  
interpretation or application of this  
Convention and, in particular, whether a  
measure is within the scope of this  
Convention, shall be determined exclusively  
in accordance with the provisions of Article  
25 of this Convention; and

(iii) サービスの貿易に関する一般協定第十七条の規定は、両締約国の権限のある当局がその措置が第二十四条の適用の対象とならないと合意する場合を除くほか、当該措置には適用しない。

(b) この3の適用上、「措置」とは、次条及び第三条1(d)の規定にかかわらず、一方の締約国が課するすべての種類の租税に関する法令、規則、手続、決定、行政上の行為その他同様の規定又は行為をいう。

4 (a) この条約は、5の場合を除くほか、第四条の規定に基づき一方の締約国の居住者とされる者に対する当該一方の締約国の課税及び合衆国の市民に対する合衆国の課税に影響を及ぼすものではない。

(b) この条約の他の規定にかかわらず、合衆国の市民であった個人又は合衆国において長期居住者とされる個人に対しては、当該個人が合衆国の法令において租税の回避を主たる目的の一つとして合衆国の市民としての地位を喪失したとされる場合（合衆国の法令において合衆国の市民としての地位を喪失した個人と同様の取扱いを受ける場合を含む）には、その市民としての地位を喪失した時から十年間、合衆国において、合衆国の法令に従って租税を課することができる。

5 4の規定は、第九条2及び3、第十七条3、第十八条、第十九条、第二十条、第二十三条、第二十四条、第二十五条並びに第二十八条の規定に基づき一方の締約国により認められる特典に影響を及ぼすものではない。もともと、第十八条、第十九条及び第二十条の規定に基づき合衆国により認められる特典については、これを要求する者が合衆国の市民でなく、かつ、合衆国における永住を適法に認められた者でない場合に限り、認められる。

(ii) the provisions of Article XVII of the General Agreement on Trade in Services shall not apply to a measure unless the competent authorities agree that the measure is not within the scope of Article 24 of this Convention.

(b) For the purposes of this paragraph, the term “measure” means a law, regulation, rule, procedure, decision, administrative action, or any similar provision or action, as related to taxes of every kind and description imposed by a Contracting State without regard to Article 2 and subparagraph (d) of paragraph 1 of Article 3.

4. (a) Except to the extent provided in paragraph 5, this Convention shall not affect the taxation by a Contracting State of its residents (as determined under Article 4) and, in the case of the United States, its citizens.

(b) Notwithstanding the other provisions of this Convention, a former citizen or long-term resident of the United States may, for the period of ten years following the loss of such status, be taxed in accordance with the laws of the United States, if the loss of such status had as one of its principal purposes the avoidance of tax (as defined under the laws of the United States).

5. The provisions of paragraph 4 shall not affect the benefits conferred by a Contracting State under paragraphs 2 and 3 of Article 9, paragraph 3 of Article 17, and Articles 18, 19, 20, 23, 24, 25 and 28, but in the case of benefits conferred by the United States under Articles 18, 19 and 20 only if the individuals claiming the benefits are neither citizens of, nor have been lawfully admitted for permanent residence in, the United States.

対象となる租税

第二条

- 1 この条約は、次の租税について適用する。
- (a) 日本国については、
- (i) 所得税
- (ii) 法人税
- (以下「日本国の租税」という。)
- (b) 合衆国については、内国歳入法によって課される連邦所得税（社会保障税を除く。以下「合衆国の租税」という。)
- 2 この条約は、1に掲げる租税に加えて又はこれに代わってこの条約の署名の日の後に課される租税であつて1に掲げる租税と同一であるもの又は実質的に類似するものについても、適用する。両締約国の権限のある当局は、各締約国の租税に関する法令について行われた実質的な改正又はこの条約における両締約国の義務に重大な影響を与える他の法令の改正を、その改正後の妥当な期間内に、相互に通知する。

第三条

- 1 この条約の適用上、文脈により別に解釈すべき場合を除くほか、
- (a) 「日本国」とは、地理的意味で用いる場合には、日本国の租税に関する法令が施行されているすべての領域（領海を含む。）及びその領域の外側に位置する区域で日本国が国際法に基づき管轄権を有し日本国の租税に関する法令が施行されているすべての区域（海底及びその下を含む。）をいう。

一般的定義

ARTICLE 2

1. This Convention shall apply to the following taxes:
- (a) in the case of Japan:
- (i) the income tax; and
- (ii) the corporation tax
- (hereinafter referred to as "Japanese tax");
- (b) in the case of the United States, the Federal income taxes imposed by the Internal Revenue Code but excluding social security taxes (hereinafter referred to as "United States tax").
2. This Convention shall also apply to any identical or substantially similar taxes which are imposed after the date of signature of the Convention in addition to, or in place of, those referred to in paragraph 1. The competent authorities of the Contracting States shall notify each other of any substantial changes which have been made in their respective tax laws, or changes in other laws that significantly affect their obligations under the Convention, within a reasonable period of time after such changes.

ARTICLE 3

1. For the purposes of this Convention, unless the context otherwise requires:
- (a) the term "Japan", when used in a geographical sense, means all the territory of Japan, including its territorial sea, in which the laws relating to Japanese tax are in force, and all the area beyond its territorial sea, including the seabed and subsoil thereof, over which Japan has jurisdiction in accordance with international law and in which the laws relating to Japanese tax are in force;

- (b) 「合衆国」とは、アメリカ合衆国をいい、地理的意味で用いる場合には、アメリカ合衆国の諸州及びコロンビア特別区をいう。また、合衆国には、その領海並びにその領海に隣接し、合衆国が国際法に基づいて主権的権利を行使する海底区域の海底及びその下を含む。ただし、合衆国には、プエルトリコ、バージン諸島、グアムその他の合衆国の属地又は準州を含まない。
- (c) 「一方の締約国」及び「他方の締約国」とは、文脈により、日本国又は合衆国をいう。
- (d) 「租税」とは、文脈により、日本国の租税又は合衆国の租税をいう。
- (e) 「者」には、個人、法人及び法人以外の団体を含む。
- (f) 「法人」とは、法人格を有する団体又は租税に関し法人格を有する団体として取り扱われる団体をいう。
- (g) 「企業」は、あらゆる事業の遂行について用いる。
- (h) 「一方の締約国の企業」及び「他方の締約国の企業」とは、それぞれ一方の締約国の居住者が営む企業及び他方の締約国の居住者が営む企業をいう。
- (i) 「国際運輸」とは、一方の締約国の企業が運用する船舶又は航空機による運送（他方の締約国内の地点の間においてのみ行われる運送を除く）をいう。
- (j) 一方の締約国の「国民」とは、次の者をいう。
- (i) 日本国については、日本国の国籍を有するすべての個人及び日本国において施行されている法令によつてその地位を与えられたすべての法人その他の団体

- (b) the term "United States" means the United States of America. When used in a geographical sense, the term includes the states thereof and the District of Columbia; such term also includes the territorial sea thereof and the seabed and subsoil of the submarine areas adjacent to that territorial sea, over which the United States exercises sovereign rights in accordance with international law; the term, however, does not include Puerto Rico, the Virgin Islands, Guam or any other United States possession or territory;
- (c) the terms "a Contracting State" and "the other Contracting State" mean Japan or the United States, as the context requires;
- (d) the term "tax" means Japanese tax or United States tax, as the context requires;
- (e) the term "person" includes an individual, a company and any other body of persons;
- (f) the term "company" means any body corporate or any entity that is treated as a body corporate for tax purposes;
- (g) the term "enterprise" applies to the carrying on of any business;
- (h) the terms "enterprise of a Contracting State" and "enterprise of the other Contracting State" mean respectively an enterprise carried on by a resident of a Contracting State and an enterprise carried on by a resident of the other Contracting State;
- (i) the term "international traffic" means any transport by a ship or aircraft operated by an enterprise of a Contracting State, except when such transport is solely between places in the other Contracting State;
- (j) the term "national" of a Contracting State means:
- (i) in relation to Japan, any individual possessing the nationality of Japan and any juridical person or other organization deriving its status as such from the laws in force in Japan; and

(ii) 合衆国については、合衆国の市民権を有するすべての個人及び合衆国において施行されている法令によつてその地位を与えられたすべての法人、パートナーシップその他の団体

(k) 「権限のある当局」とは、次の者をいう。

(i) 日本国については、財務大臣又は権限を与えられたその代理者

(iii) 合衆国については、財務長官又は権限を与えられたその代理者

(l) 「事業」には、自由職業その他の独立の性格を有する活動を含む。

(m) 「年金基金」とは、次の(i)から(ii)までに掲げる要件を満たす者をいう。

(i) 一方の締約国の法令に基づいて組織されること。

(ii) 当該一方の締約国において主として退職年金その他これに類する報酬（社会保障制度に基づく給付を含む。）の管理又は給付のために設立され、かつ、維持されること。

(ii) いう活動に関して当該一方の締約国において租税を免除されること。

2 一方の締約国によるこの条約の適用に際しては、この条約において定義されていない用語は、文脈により別に解釈すべき場合又は両締約国の権限のある当局が第二十五条の規定に基づきこの条約の適用上の用語の意義について別に合意する場合を除くほか、この条約の適用を受ける租税に関する当該一方の締約国の法令において当該用語がその適用の時点で有する意義を有するものとする。当該一方の締約国において適用される租税に関する法令における当該用語の意義は、当該一方の締約国の他の法令における当該用語の意義に優先するものとする。

(ii) in relation to the United States, any individual possessing the citizenship of the United States and any legal person, partnership or association deriving its status as such from the laws in force in the United States;

(k) the term “competent authority” means:

(i) in the case of Japan, the Minister of Finance or his authorized representative; and

(ii) in the case of the United States, the Secretary of the Treasury or his delegate;

(l) the term “business” includes the performance of professional services and of other activities of an independent character; and

(m) the term “pension fund” means any person that:

(i) is organized under the laws of a Contracting State;

(ii) is established and maintained in that Contracting State primarily to administer or provide pensions or other similar remuneration, including social security payments; and

(iii) is exempt from tax in that Contracting State with respect to the activities described in clause (ii).

2. As regards the application of this Convention at any time by a Contracting State any term not defined therein shall, unless the context otherwise requires, or the competent authorities agree otherwise on the meaning of a term for the purposes of applying the Convention pursuant to Article 25, have the meaning which it has at that time under the laws of that Contracting State for the purposes of the taxes to which the Convention applies, any meaning under the applicable tax laws of that Contracting State prevailing over a meaning given to the term under other laws of that Contracting State.

居住者

第四条

1 この条約の適用上、「一方の締約国の居住者」とは、当該一方の締約国の法令の下において、住所、居所、市民権、本店又は主たる事務所の所在地、法人の設立場所その他これらに類する基準により当該一方の締約国において課税を受けるべきものとされる者をいい、次のものを含む。

- (a) 当該一方の締約国及び当該一方の締約国の地方政府又は地方公共団体
- (b) 当該一方の締約国の法令に基づいて組織された年金基金
- (c) 当該一方の締約国の法令に基づいて組織された者で、専ら宗教、慈善、教育、科学、芸術、文化その他公の目的のために当該一方の締約国において設立され、かつ、維持されるもの（当該一方の締約国において租税を免除される者を含む。）

ただし、一方の締約国の居住者には、当該一方の締約国内に源泉のある所得又は当該一方の締約国内にある恒久的施設に帰せられる利得のみについて当該一方の締約国において租税を課される者を含む。

2 1の規定にかかわらず、合衆国の市民又は合衆国の法令に基づいて合衆国における永住を適法に認められた外国人である個人は、次の(a)から(c)までに掲げる要件を満たす場合に限り、合衆国の居住者とされる。

- (a) 当該個人が、1の規定により日本国の居住者に該当する者でないこと。
- (b) 当該個人が、合衆国内に実質的に所在し、又は恒久的住居若しくは常用の住居を有すること。
- (c) 当該個人が、日本国と合衆国以外の国との間の二重課税の回避のための条約又は協定の適用上当該合衆国以外の国の居住者とされる者でないこと。

3 1の規定により双方の締約国の居住者に該当する個人（2の規定の対象となる合衆国の市民又は外国人である個人を除く。）については、次のとおりその地位を決定する。

ARTICLE 4

1. For the purposes of this Convention, the term “resident of a Contracting State” means any person who, under the laws of that Contracting State, is liable to tax therein by reason of his domicile, residence, citizenship, place of head or main office, place of incorporation, or any other criterion of a similar nature, and also includes:

- (a) that Contracting State and any political subdivision or local authority thereof;
- (b) a pension fund organized under the laws of that Contracting State; and
- (c) a person organized under the laws of that Contracting State and established and maintained in that Contracting State exclusively for a religious, charitable, educational, scientific, artistic, cultural or public purpose, even if the person is exempt from tax in that Contracting State.

This term, however, does not include any person who is liable to tax in that Contracting State in respect only of income from sources in that Contracting State, or of profits attributable to a permanent establishment in that Contracting State.

2. Notwithstanding the provisions of paragraph 1, an individual who is a United States citizen or an alien lawfully admitted for permanent residence in the United States under the laws of the United States shall be regarded as a resident of the United States only if the individual:

- (a) is not a resident of Japan under paragraph 1;
- (b) has a substantial presence, permanent home or habitual abode in the United States; and
- (c) for the purposes of a convention or agreement for the avoidance of double taxation between Japan and a state other than the United States, is not a resident of that state.

3. Where by reason of the provisions of paragraph 1 an individual not described in paragraph 2 is a resident of both Contracting States, then his status shall be determined as follows:

(a) 当該個人は、その使用する恒久的住居が所在する締約国の居住者とみなす。その使用する恒久的住居を双方の締約国内に有する場合には、当該個人は、その人的及び経済的関係がより密接な締約国（重要な利害関係の中心がある締約国）の居住者とみなす。

(b) その重要な利害関係の中心がある締約国を決定することができない場合又はその使用する恒久的住居をいずれの締約国内にも有しない場合には、当該個人は、その有する常用の住居が所在する締約国の居住者とみなす。

(c) その常用の住居を双方の締約国内に有する場合又はこれをいずれの締約国内にも有しない場合には、当該個人は、当該個人が国民である締約国の居住者とみなす。

(d) 当該個人が双方の締約国の国民である場合又はいずれの締約国の国民でもない場合には、両締約国の権限のある当局は、合意により当該事案を解決する。

この3の規定により一方の締約国の居住者とみなされる個人は、この条約の適用上、当該一方の締約国のみの居住者とみなす。

4 1の規定により双方の締約国の居住者に該当する者で個人以外のものについては、両締約国の権限のある当局は、合意により、この条約の適用上その者が居住者とみなされる締約国を決定する。両締約国の権限のある当局による合意がない場合には、その者は、この条約により認められる特典を要求する上で、いずれの締約国の居住者ともされない。

(a) he shall be deemed to be a resident of the Contracting State in which he has a permanent home available to him; if he has a permanent home available to him in both Contracting States, he shall be deemed to be a resident of the Contracting State with which his personal and economic relations are closer (center of vital interests);

(b) if the Contracting State in which he has his center of vital interests cannot be determined, or if he does not have a permanent home available to him in either Contracting State, he shall be deemed to be a resident of the Contracting State in which he has an habitual abode;

(c) if he has an habitual abode in both Contracting States or in neither of them, he shall be deemed to be a resident of the Contracting State of which he is a national;

(d) if he is a national of both Contracting States or of neither of them, the competent authorities of the Contracting States shall settle the question by mutual agreement.

An individual who is deemed to be a resident of a Contracting State by reason of the provisions of this paragraph shall be deemed to be a resident only of that Contracting State for the purposes of this Convention.

4. Where by reason of the provisions of paragraph 1 a person other than an individual is a resident of both Contracting States, then the competent authorities of the Contracting States shall determine by mutual agreement the Contracting State of which that person shall be deemed to be a resident for the purposes of this Convention. In the absence of a mutual agreement by the competent authorities of the Contracting States, the person shall not be considered a resident of either Contracting State for the purposes of claiming any benefits provided by the Convention.

5 この条約の規定に従い一方の締約国が他方の締約国の居住者の所得に対する租税の率を軽減し、又はその租税を免除する場合において、当該他方の締約国において施行されている法令により、当該居住者が、その所得のうち当該他方の締約国に送金され、又は当該他方の締約国内で受領された部分についてののみ当該他方の締約国において租税を課されることとされているときは、その軽減又は免除は、その所得のうち当該他方の締約国に送金され、又は当該他方の締約国内で受領された部分についてののみ適用する。

6 この条約の適用上、

(a) 一方の締約国において取得される所得であつて、

(i) 他方の締約国において組織された団体を通じて取得され、かつ、

(ii) 当該他方の締約国の租税に関する法令に基づき当該団体の受益者、構成員又は参加者の所得として取り扱われるもの

に対しては、当該一方の締約国の租税に関する法令に基づき当該受益者、構成員又は参加者の所得として取り扱われるか否かにかかわらず、当該他方の締約国の居住者である当該受益者、構成員又は参加者（この条約に別に定める要件を満たすものに限る。）の所得として取り扱われる部分についてののみ、この条約の特典（当該受益者、構成員又は参加者が直接に取得したものとした場合に認められる特典に限る。）が与えられる。

(b) 一方の締約国において取得される所得であつて、

(i) 他方の締約国において組織された団体を通じて取得され、かつ、

(ii) 当該他方の締約国の租税に関する法令に基づき当該団体の所得として取り扱われるもの

5. Where, pursuant to any provision of this Convention, a Contracting State reduces the rate of tax on, or exempts from tax, income of a resident of the other Contracting State and under the laws in force in that other Contracting State the resident is subject to tax by that other Contracting State only on that part of such income which is remitted to or received in that other Contracting State, then the reduction or exemption shall apply only to so much of such income as is remitted to or received in that other Contracting State.

6. For the purposes of applying this Convention:

(a) An item of income:

(i) derived from a Contracting State through an entity that is organized in the other Contracting State; and

(ii) treated as the income of the beneficiaries, members or participants of that entity under the tax laws of that other Contracting State;

shall be eligible for the benefits of the Convention that would be granted if it were directly derived by a beneficiary, member or participant of that entity who is a resident of that other Contracting State, to the extent that such beneficiaries, members or participants are residents of that other Contracting State and satisfy any other conditions specified in the Convention, without regard to whether the income is treated as the income of such beneficiaries, members or participants under the tax laws of the first-mentioned Contracting State.

(b) An item of income:

(i) derived from a Contracting State through an entity that is organized in the other Contracting State; and

(ii) treated as the income of that entity under the tax laws of that other Contracting State;

に対しては、当該一方の締約国の租税に関する法令に基づき当該団体の所得として取り扱われるか否かにかかわらず、当該団体が当該他方の締約国の居住者であり、かつ、この条約に別に定める要件を満たす場合にのみ、この条約の特典（当該他方の締約国の居住者が取得したものとした場合に認められる特典に限る。）が与えられる。

(c) 一方の締約国において取得される所得であつて、

(i) 両締約国以外の国において組織された団体を通じて取得され、かつ、

(ii) 他方の締約国の租税に関する法令に基づき当該団体の受益者、構成員又は参加者の所得として取り扱われるもの

に対しては、当該一方の締約国又は当該両締約国以外の国の租税に関する法令に基づき当該受益者、構成員又は参加者の所得として取り扱われるか否かにかかわらず、当該他方の締約国の居住者である当該受益者、構成員又は参加者（この条約に別に定める要件を満たすものに限る。）の所得として取り扱われる部分についてのみ、この条約の特典（当該受益者、構成員又は参加者が直接に取得したものとした場合に認められる特典に限る。）が与えられる。

(d) 一方の締約国において取得される所得であつて、

(i) 両締約国以外の国において組織された団体を通じて取得され、かつ、

(ii) 他方の締約国の租税に関する法令に基づき当該団体の所得として取り扱われるもの

に対しては、この条約の特典は与えられない。

(e) 一方の締約国において取得される所得であつて、

(i) 当該一方の締約国において組織された団体を通じて取得され、かつ、

shall be eligible for the benefits of the Convention that would be granted to a resident of that other Contracting State, without regard to whether the income is treated as the income of the entity under the tax laws of the first-mentioned Contracting State, if such entity is a resident of that other Contracting State and satisfies any other conditions specified in the Convention.

(c) An item of income:

(i) derived from a Contracting State through an entity that is organized in a state other than the Contracting States; and

(ii) treated as the income of the beneficiaries, members or participants of that entity under the tax laws of the other Contracting State;

shall be eligible for the benefits of the Convention that would be granted if it were directly derived by a beneficiary, member or participant of that entity who is a resident of that other Contracting State, to the extent that such beneficiaries, members or participants are residents of that other Contracting State and satisfy any other conditions specified in the Convention, without regard to whether the income is treated as the income of such beneficiaries, members or participants under the tax laws of the first-mentioned Contracting State or such state.

(d) An item of income:

(i) derived from a Contracting State through an entity that is organized in a state other than the Contracting States; and

(ii) treated as the income of that entity under the tax laws of the other Contracting State; shall not be eligible for the benefits of the Convention.

(e) An item of income:

(i) derived from a Contracting State through an entity that is organized in that Contracting State; and

(iii) 他方の締約国の租税に関する法令に基づき当該団体の所得として取り扱われるものに対しては、この条約の特典は与えられない。

第五条

恒久的施設

1 この条約の適用上、「恒久的施設」とは、事業を行う一定の場所であって企業がその事業の全部又は一部を行っている場所をいう。

2 「恒久的施設」には、特に、次のものを含む。

- (a) 事業の管理の場所
- (b) 支店
- (c) 事務所
- (d) 工場
- (e) 作業場
- (f) 鉱山、石油又は天然ガスの坑井、採石場その他天然資源を採取する場所

3 建築工事現場、建設若しくは据付けの工事又は天然資源の探査のために使用される設備、掘削機器若しくは掘削船については、これらの工事現場、工事又は探査が十二箇月を超える期間存続する場合には、恒久的施設を構成するものとする。

4 1 から3までの規定にかかわらず、「恒久的施設」には、次のことは、含まないものとする。

- (a) 企業に属する物品又は商品の保管、展示又は引渡しのためにのみ施設を使用すること。
- (b) 企業に属する物品又は商品の在庫を保管、展示又は引渡しのためにのみ保有すること。
- (c) 企業に属する物品又は商品の在庫を他の企業による加工のためにのみ保有すること。

(i.i) treated as the income of that entity under the tax laws of the other Contracting State; shall not be eligible for the benefits of the Convention.

ARTICLE 5

1. For the purposes of this Convention, the term “permanent establishment” means a fixed place of business through which the business of an enterprise is wholly or partly carried on.

2. The term “permanent establishment” includes especially:

- (a) a place of management;
- (b) a branch;
- (c) an office;
- (d) a factory;
- (e) a workshop; and
- (f) a mine, an oil or gas well, a quarry or any other place of extraction of natural resources.

3. A building site, a construction or installation project, or an installation or drilling rig or ship used for the exploration of natural resources, constitutes a permanent establishment only if it lasts or the activity continues for a period of more than twelve months.

4. Notwithstanding the preceding provisions of this Article, the term “permanent establishment” shall be deemed not to include:

- (a) the use of facilities solely for the purpose of storage, display or delivery of goods or merchandise belonging to the enterprise;
- (b) the maintenance of a stock of goods or merchandise belonging to the enterprise solely for the purpose of storage, display or delivery;
- (c) the maintenance of a stock of goods or merchandise belonging to the enterprise solely for the purpose of processing by another enterprise;

(d) 企業のために物品若しくは商品を購入し又は情報を収集することのみを目的として、事業を行う一定の場所を保有すること。

(e) 企業のためにその他の準備的又は補助的な性格の活動を行うことのみを目的として、事業を行う一定の場所を保有すること。

(f) (a)から(e)までに掲げる活動を組み合わせた活動を行うことのみを目的として、事業を行う一定の場所を保有すること。ただし、当該一定の場所におけるこのような組合せによる活動の全体が準備的又は補助的な性格のものである場合に限り。

5 1及び2の規定にかかわらず、企業に代わって行動する者（6の規定が適用される独立の地位を有する代理人を除く。）が、一方の締約国内で、当該企業の名において契約を締結する権限を有し、かつ、この権限を反復して行使する場合には、当該企業は、その者が当該企業のために行うすべての活動について、当該一方の締約国内に恒久的施設を有するものとされる。ただし、その者の活動が4に掲げる活動（事業を行う一定の場所で行われたとしても、4の規定により当該一定の場所が恒久的施設とされない活動）のみである場合は、この限りでない。

6 企業は、通常の方法でその業務を行う仲立人、間屋その他の独立の地位を有する代理人を通じて一方の締約国内で事業を行っているという理由のみでは、当該一方の締約国内に恒久的施設を有するものとされない。

7 一方の締約国の居住者である法人が、他方の締約国の居住者である法人若しくは他方の締約国内において事業（恒久的施設を通じて行われるものであるか否かを問わない。）を行う法人を支配し、又はこれらに支配されているという事実によつては、いずれの一方の法人も、他方の法人の恒久的施設とはされない。

(d) the maintenance of a fixed place of business solely for the purpose of purchasing goods or merchandise or of collecting information, for the enterprise;

(e) the maintenance of a fixed place of business solely for the purpose of carrying on, for the enterprise, any other activity of a preparatory or auxiliary character;

(f) the maintenance of a fixed place of business solely for any combination of activities mentioned in subparagraphs (a) to (e), provided that the overall activity of the fixed place of business resulting from this combination is of a preparatory or auxiliary character.

5. Notwithstanding the provisions of paragraphs 1 and 2, where a person - other than an agent of an independent status to whom the provisions of paragraph 6 apply - is acting on behalf of an enterprise and has, and habitually exercises, in a Contracting State an authority to conclude contracts in the name of the enterprise, that enterprise shall be deemed to have a permanent establishment in that Contracting State in respect of any activities that the person undertakes for the enterprise, unless the activities of such person are limited to those mentioned in paragraph 4 that, if exercised through a fixed place of business, would not make this fixed place of business a permanent establishment under the provisions of that paragraph.

6. An enterprise shall not be deemed to have a permanent establishment in a Contracting State merely because it carries on business in that Contracting State through a broker, general commission agent or any other agent of an independent status, provided that such persons are acting in the ordinary course of their business.

7. The fact that a company which is a resident of a Contracting State controls or is controlled by a company which is a resident of the other Contracting State, or which carries on business in that other Contracting State (whether through a permanent establishment or otherwise), shall not constitute either company a permanent establishment of the other.

不動産所得

第六条

- 1 一方の締約国の居住者が他方の締約国内に存在する不動産から取得する所得（農業又は林業から生ずる所得を含む。）に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。
- 2 この条約において、「不動産」とは、当該財産が存在する締約国の法令における不動産の意義を有するものとする。不動産には、いかなる場合にも、これに附属する財産、農業又は林業に用いられる家畜類及び設備、不動産に関する一般法の規定の適用がある権利、不動産用益権並びに鉱石その他の天然資源の採取又は採取の権利の対価として料金（固定的な料金であるか否かを問わない。）を受領する権利を含む。船舶及び航空機は、不動産とはみなさない。

- 3 1の規定は、不動産の直接使用、賃貸その他のすべての形式による使用から生ずる所得について適用する。
- 4 1及び3の規定は、企業の不動産から生ずる所得についても、適用する。

第七条

- 1 一方の締約国の企業の利得に対しては、その企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内において事業を行わない限り、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。一方の締約国の企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内において事業を行う場合には、その企業の利得のうち当該恒久的施設に帰せられる部分に対してのみ、当該他方の締約国において租税を課することができる。
- 2 3の規定に従うことを条件として、一方の締約国の企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内において事業を行う場合には、当該恒久的施設が、同一又は類似の条件で同一又は類似の活動を行う別個のかつ分離した企業であつて、当該恒久的施設を有する企業と全く独立の立場で取引を行うものであるとしたならば当該恒久的施設が取得したとみられる利得が、各締約国において当該恒久的施設に帰せられるものとする。

ARTICLE 6

1. Income derived by a resident of a Contracting State from real property (including income from agriculture or forestry) situated in the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

2. The term "real property" as used in this Convention shall have the meaning which it has under the laws of the Contracting State in which the property in question is situated. The term shall in any case include property accessory to real property, livestock and equipment used in agriculture and forestry, rights to which the provisions of general law respecting real property apply, usufruct of real property and rights to variable or fixed payments as consideration for the working of, or the right to work, mineral deposits and other natural resources; ships and aircraft shall not be regarded as real property.

3. The provisions of paragraph 1 shall apply to income derived from the direct use, letting, or use in any other form of real property.

4. The provisions of paragraphs 1 and 3 shall also apply to the income from real property of an enterprise.

ARTICLE 7

1. The profits of an enterprise of a Contracting State shall be taxable only in that Contracting State unless the enterprise carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein. If the enterprise carries on business as aforesaid, the profits of the enterprise may be taxed in that other Contracting State but only so much of them as is attributable to the permanent establishment.

2. Subject to the provisions of paragraph 3, where an enterprise of a Contracting State carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein, there shall in each Contracting State be attributed to that permanent establishment the profits which it might be expected to make if it were a distinct and separate enterprise engaged in the same or similar activities under the same or similar conditions and dealing wholly independently with the enterprise of which it is a permanent establishment.

3 恒久的施設の利得を決定するに当たっては、経営費及び一般管理費を含む費用で当該恒久的施設のために生じたものは、当該恒久的施設が存在する締約国内において生じたものであるか他の場所において生じたものであるかを問わず、控除することを認められる。

4 一方の締約国の権限のある当局が入手することができる情報が恒久的施設に帰せられる利得を決定するために十分でない場合には、この条のいかなる規定も、当該恒久的施設を有する者の納税義務の決定に関する当該締約国の法令の適用に影響を及ぼすものではない。ただし、当該情報に基づいて恒久的施設の利得を決定する場合には、この条に定める原則に従うものとする。

5 恒久的施設が企業のために物品又は商品の単なる購入を行ったことを理由としては、いかなる利得も、当該恒久的施設に帰せられることはない。

6 1 から5までの規定の適用上、恒久的施設に帰せられる利得は、毎年同一の方法によって決定する。ただし、別の方法を用いることにつき正当な理由がある場合は、この限りでない。

7 他の条で別個に取り扱われている種類の所得が企業の利得に含まれる場合には、当該他の条の規定は、この条の規定によって影響されることはない。

第八条

1 一方の締約国の企業が船舶又は航空機を国際運輸に運用することによって取得する利得に対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

3. In determining the profits of a permanent establishment, there shall be allowed as deductions expenses which are incurred for the purposes of the permanent establishment, including executive and general administrative expenses so incurred, whether in the Contracting State in which the permanent establishment is situated or elsewhere.

4. Nothing in this Article shall affect the application of any law of a Contracting State relating to the determination of the tax liability of a person in cases where the information available to the competent authority of that Contracting State is inadequate to determine the profits to be attributed to a permanent establishment, provided that, on the basis of the available information, the determination of the profits of the permanent establishment is consistent with the principles stated in this Article.

5. No profits shall be attributed to a permanent establishment by reason of the mere purchase by that permanent establishment of goods or merchandise for the enterprise.

6. For the purposes of the preceding paragraphs of this Article, the profits to be attributed to the permanent establishment shall be determined by the same method year by year unless there is good and sufficient reason to the contrary.

7. Where profits include items of income which are dealt with separately in other Articles of this convention, then the provisions of those Articles shall not be affected by the provisions of this Article.

ARTICLE 8

1. Profits from the operation of ships or aircraft in international traffic carried on by an enterprise of a Contracting State shall be taxable only in that Contracting State.

2 この条の適用上、船舶又は航空機を運用することによって取得する利得には、船舶又は航空機の賃貸によって取得する利得（裸用船による船舶又は航空機の賃貸によって取得する利得については、当該賃貸が船舶又は航空機の国際運輸における運用に付随するものである場合に限る。）が含まれる。いずれかの締約国内における貨物又は旅客の国内運送によって取得する利得は、当該運送が国際運輸の一部として行われる場合には、船舶又は航空機を国際運輸に運用することによって取得する利得として取り扱う。

3 第二条及び第三条 1 (d) の規定にかかわらず、いかなる合衆国の地方政府又は地方公共団体も日本国の企業が船舶又は航空機を国際運輸に運用することにつき日本国における住民税又は事業税に類似する租税を課さないことを条件として、合衆国の企業は、船舶又は航空機を国際運輸に運用することにつき日本国において住民税及び事業税を免除される。

4 一方の締約国の企業がコンテナ（コンテナの運送のためのトレーラー、はしけ及び関連設備を含む）を使用し、保持し又は賃貸することによって取得する利得に対しては、当該コンテナが他方の締約国内においてのみ使用される場合を除くほか、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

5 1 から 4 までの規定は、共同計算、共同経営又は国際経営共同体に参加していることによって取得する利得についても適用する。

第九条

1 次の (a) 又は (b) に該当する場合であつて、そのいずれの場合においても、商業上又は資金上の関係において、双方の企業の間、独立の企業の間、に設けられる条件と異なる条件が設けられ又は課されているときは、その条件がないとしたならば一方の企業の利得となつたとみられる利得であつてその条件のために当該一方の企業の利得となつたものに対しては、これを当該一方の企業の利得に算入して租税を課することができる。

- (a) 一方の締約国の企業が他方の締約国の企業の経営、支配又は資本に直接又は間接に参加している場合
- (b) 同一の者が一方の締約国の企業及び他方の締約国の企業の経営、支配又は資本に直接又は間接に参加している場合

2. For the purposes of this Article, profits from the operation of ships or aircraft include profits derived from the rental of ships or aircraft on a full basis. They also include profits from the rental of ships or aircraft on a bareboat basis if such rental activities are incidental to the operation of ships or aircraft in international traffic. Profits from the inland transport of property or passengers within either Contracting State shall be treated as profits from the operation of ships or aircraft in international traffic if such transport is undertaken as part of international traffic.

3. Notwithstanding the provisions of Article 2 and subparagraph (d) of paragraph 1 of Article 3, provided that no political subdivision or local authority of the United States levies a tax similar to the local inhabitant taxes or the enterprise tax in Japan in respect of the operation of ships or aircraft in international traffic carried on by an enterprise of Japan, an enterprise of the United States shall be exempt from the local inhabitant taxes and the enterprise tax in Japan in respect of the operation of ships or aircraft in international traffic.

4. Profits of an enterprise of a Contracting State from the use, maintenance or rental of containers, including trailers, barges and related equipment for the transport of containers, shall be taxable only in that Contracting State except where such containers are used solely within the other Contracting State.

5. The provisions of the preceding paragraphs of this Article shall also apply to profits from the participation in a pool, a joint business or an international operating agency.

ARTICLE 9

1. Where

- (a) an enterprise of a Contracting State participates directly or indirectly in the management, control or capital of an enterprise of the other Contracting State, or
- (b) the same persons participate directly or indirectly in the management, control or capital of an enterprise of a Contracting State and an enterprise of the other Contracting State,

2 一方の締約国において租税を課された当該一方の締約国の企業の利得を他方の締約国が当該他方の締約国の企業の利得に算入して租税を課する場合において、当該一方の締約国が、その算入された利得が、双方の企業の間に設けられた条件が独立の企業の間に設けられたであろう条件であったとしたならば当該他方の締約国の企業の利得となったとみられる利得であることにつき当該他方の締約国との間で合意するときは、当該一方の締約国は、当該利得に対して当該一方の締約国において課された租税の額について適当な調整を行う。この調整に当たっては、この条約の他の規定に妥当な考慮を払う。

3 1の規定にかかわらず、一方の締約国は、1にいう条件がないとしたならば当該一方の締約国の企業の利得として更正の対象となったとみられる利得に係る課税年度の終了時から七年以内に当該企業に対する調査が開始されない場合には、1にいう状況においても、当該利得の更正をしてはならない。(この3の規定は、不正に租税を免れた場合又は定められた期間内に調査を開始することができないことが当該企業の作為若しくは不作為に帰せられる場合には、適用しない。)

第十条

1 一方の締約国の居住者である法人が他方の締約国の居住者に支払う配当に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。

2 1の配当に対しては、これを支払う法人が居住者とされる締約国においても、当該締約国の法令に従って租税を課することができる。その租税の額は、当該配当の受益者が他方の締約国の居住者である場合には、4及び5に定める場合を除くほか、次の額を超えないものとする。

and in either case conditions are made or imposed between the two enterprises in their commercial or financial relations which differ from those which would be made between independent enterprises, then any profits which would, but for those conditions, have accrued to one of the enterprises, but, by reason of those conditions, have not so accrued, may be included in the profits of that enterprise and taxed accordingly.

2. Where a Contracting State includes in the profits of an enterprise of that Contracting State - and taxes accordingly - profits on which an enterprise of the other Contracting State has been charged to tax in that other Contracting State and that other Contracting State agrees that the profits so included are profits which would have accrued to the enterprise of the first-mentioned Contracting State if the conditions made between the two enterprises had been those which would have been made between independent enterprises, then that other Contracting State shall make an appropriate adjustment to the amount of the tax charged therein on those profits. In determining such adjustment, due regard shall be had to the other provisions of this Convention.

3. Notwithstanding the provisions of paragraph 1, a Contracting State shall not change the profits of an enterprise of that Contracting State in the circumstances referred to in that paragraph, if an examination of that enterprise is not initiated within seven years from the end of the taxable year in which the profits that would be subject to such change would, but for the conditions referred to in that paragraph, have accrued to that enterprise. The provisions of this paragraph shall not apply in the case of fraud or willful default or if the inability to initiate an examination within the prescribed period is attributable to the actions or inaction of that enterprise.

ARTICLE 10

1. Dividends paid by a company which is a resident of a Contracting State to a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

2. However, such dividends may also be taxed in the Contracting State of which the company paying the dividends is a resident and according to the laws of that Contracting State, but if the dividends are beneficially owned by a resident of the other Contracting State, except as provided in paragraphs 4 and 5, the tax so charged shall not exceed:

(a) 当該配当の受益者が、当該配当の支払を受ける者が特定される日に、当該配当を支払う法人の議決権のある株式の十パーセント以上を直接又は間接に所有する法人である場合には、当該配当の額の五パーセント

(b) その他のすべての場合には、当該配当の額の十パーセント

この2の規定は、当該配当を支払う法人のその配当に充てられる利得に対する課税に影響を及ぼすものではない。

3 2の規定にかかわらず、1の配当に対しては、当該配当の受益者が次の(a)又は(b)に該当する場合には、当該配当を支払う法人が居住者とされる締約国においては租税を課することができない。

(a) 他方の締約国の居住者であり、かつ、当該配当の支払を受ける者が特定される日をその末日とする十二箇月の期間を通じ、当該配当を支払う法人の議決権のある株式の五十パーセントを超える株式を直接に又はいずれかの締約国の一若しくは二以上の居住者を通じて間接に所有する法人であつて、次のいずれかに該当するもの

(i) 第二十二条1(c)(i)又は(ii)に該当する法人

(ii) 第二十二条1(f)(i)及び(ii)に規定する要件を満たす法人で、当該配当に関し同条2に規定する条件を満たすもの

(iii) この3の規定の適用に関し、第二十二条4の規定により認定を受けたもの

(b) 他方の締約国の居住者である年金基金。ただし、当該配当が、当該年金基金が直接又は間接に事業を遂行することにより取得されたものでない場合に限る。

(a) 5 percent of the gross amount of the dividends if the beneficial owner is a company that owns directly or indirectly, on the date on which entitlement to the dividends is determined, at least 10 percent of the voting stock of the company paying the dividends;

(b) 10 percent of the gross amount of the dividends in all other cases.

This paragraph shall not affect the taxation of the company in respect of the profits out of which the dividends are paid.

3. Notwithstanding the provisions of paragraph 2, such dividends shall not be taxed in the Contracting State of which the company paying the dividends is a resident if the beneficial owner of the dividends is:

(a) a company that is a resident of the other Contracting State, that has owned, directly or indirectly through one or more residents of either Contracting State, more than 50 percent of the voting stock of the company paying the dividends for the period of twelve months ending on the date on which entitlement to the dividends is determined, and that either:

(i) satisfies the conditions described in clause (i) or (ii) of subparagraph (c) of paragraph 1 of Article 22;

(ii) satisfies the conditions described in clauses (i) and (ii) of subparagraph (f) of paragraph 1 of Article 22, provided that the company satisfies the conditions described in paragraph 2 of that Article with respect to the dividends; or

(iii) has received a determination pursuant to paragraph 4 of Article 22 with respect to this paragraph; or

(b) a pension fund that is a resident of the other Contracting State, provided that such dividends are not derived from the carrying on of a business, directly or indirectly, by such pension fund.

4 2 (a) 及び 3 (a) の規定は、合衆国の規制投資会社（以下この 4 において「規制投資会社」という。）又は合衆国の不動産投資信託（以下この 4 において「不動産投資信託」という。）によって支払われる配当については、適用しない。規制投資会社によって支払われる配当については、2 (b) 及び 3 (b) の規定を適用する。不動産投資信託によって支払われる配当については、次のいずれかの場合に該当するときに限り、2 (b) 及び 3 (b) の規定を適用する。

(a) 当該配当の受益者が、当該不動産投資信託の十パーセント以下の持分を保有する個人又は当該不動産投資信託の十パーセント以下の持分を保有する年金基金である場合

(b) 当該配当が当該不動産投資信託の一般に取引される種類の持分に関して支払われ、かつ、当該配当の受益者が当該不動産投資信託のいずれの種類の持分についてもその五パーセント以下の持分を保有する者である場合

(c) 当該配当の受益者が当該不動産投資信託の十パーセント以下の持分を保有する者であり、かつ、当該不動産投資信託が分散投資している場合

5 2 (a) 及び 3 (a) の規定は、日本国における課税所得の計算上受益者に対して支払う配当を控除することができる法人によって支払われる配当については、適用しない。当該法人の有する資産のうち日本国内に存在する不動産により直接又は間接に構成される部分の割合が五十パーセント以下である場合は、当該法人によって支払われる配当については、2 (b) 及び 3 (b) の規定を適用する。当該法人に係る当該割合が五十パーセントを超える場合は、当該法人によって支払われる配当については、次のいずれかの場合に該当するときに限り、2 (b) 及び 3 (b) の規定を適用する。

(a) 当該配当の受益者が、当該法人の十パーセント以下の持分を保有する個人又は当該法人の十パーセント以下の持分を保有する年金基金である場合

4. The provisions of subparagraph (a) of paragraph 2 and subparagraph (a) of paragraph 3 shall not apply in the case of dividends paid by a United States Regulated Investment Company (hereinafter referred to as a "RIC") or a United States Real Estate Investment Trust (hereinafter referred to as a "REIT"). The provisions of subparagraph (b) of paragraph 2 and subparagraph (b) of paragraph 3 shall apply in the case of dividends paid by a RIC. In the case of dividends paid by a REIT, the provisions of subparagraph (b) of paragraph 2 and subparagraph (b) of paragraph 3 shall apply only if:

(a) the beneficial owner of the dividends is an individual holding an interest of not more than 10 percent in the REIT or a pension fund holding an interest of not more than 10 percent in the REIT;

(b) the dividends are paid with respect to a class of stock that is publicly traded and the beneficial owner of the dividends is a person holding an interest of not more than 5 percent of any class of the stock of the REIT; or

(c) the beneficial owner of the dividends is a person holding an interest of not more than 10 percent in the REIT and that REIT is diversified.

5. The provisions of subparagraph (a) of paragraph 2 and subparagraph (a) of paragraph 3 shall not apply in the case of dividends paid by a company which is entitled to a deduction for dividends paid to its beneficiaries in computing its taxable income in Japan. The provisions of subparagraph (b) of paragraph 2 and subparagraph (b) of paragraph 3 shall apply in the case of dividends paid by such company, provided that not more than 50 percent of its assets consist, directly or indirectly, of real property situated in Japan. Where more than 50 percent of the assets of such company consist, directly or indirectly, of real property situated in Japan, the provisions of subparagraph (b) of paragraph 2 and subparagraph (b) of paragraph 3 shall apply only if:

(a) the beneficial owner of the dividends is an individual holding an interest of not more than 10 percent in such company or a pension fund holding an interest of not more than 10 percent in such company;

## 米国との租税（所得）条約

二五五二

(b) 当該配当が当該法人の一般に取引される種類の持分に関して支払われ、かつ、当該配当の受益者が当該法人のいずれの種類の持分についてもその五パーセント以下の持分を保有する者である場合

(c) 当該配当の受益者が当該法人の十パーセント以下の持分を保有する者であり、かつ、当該法人が分散投資している場合

6 この条において、「配当」とは、株式その他利得の分配を受ける権利（信用に係る債権を除く。）から生ずる所得及び支払者が居住者とされる締約国の租税に関する法令上株式から生ずる所得と同様に取られる所得をいう。

7 1 から3までの規定は、一方の締約国の居住者である配当の受益者が、当該配当を支払う法人が居住者とされる他方の締約国内において当該他方の締約国内にある恒久的施設を通じて事業を行う場合において、当該配当の支払の基因となった株式その他の持分が当該恒久的施設と実質的な関連を有するものであるときは、適用しない。この場合には、第七条の規定を適用する。

8 一方の締約国は、他方の締約国の居住者である法人が支払う配当及び当該法人の留保所得については、これらの配当及び留保所得の全部又は一部が当該一方の締約国内において生じた利得又は所得から成る場合においても、当該配当（当該一方の締約国の居住者に支払われる配当及び配当の支払の基因となった株式その他の持分が当該一方の締約国内にある恒久的施設と実質的な関連を有するものである場合の配当を除く。）に対して租税を課することができず、また、当該留保所得（9 の規定により租税を課される所得を除く。）に対して租税を課することができない。

(b) the dividends are paid with respect to a class of interest in such company that is publicly traded and the beneficial owner of the dividends is a person holding an interest of not more than 5 percent of any class of interest in the company; or

(c) the beneficial owner of the dividends is a person holding an interest of not more than 10 percent in the company and the company is diversified.

6. The term "dividends" as used in this Article means income from shares or other rights, not being debt-claims, participating in profits, as well as income which is subjected to the same taxation treatment as income from shares by the tax laws of the Contracting State of which the payor is a resident.

7. The provisions of paragraphs 1, 2 and 3 shall not apply if the beneficial owner of the dividends, being a resident of a Contracting State, carries on business in the other Contracting State of which the company paying the dividends is a resident, through a permanent establishment situated therein, and the holding in respect of which the dividends are paid is effectively connected with such permanent establishment. In such case the provisions of Article 7 shall apply.

8. A Contracting State shall not impose any tax on the dividends paid by a company that is a resident of the other Contracting State, except insofar as the dividends are paid to a resident of the first-mentioned Contracting State or insofar as the holding in respect of which the dividends are paid is effectively connected with a permanent establishment situated in that Contracting State, nor shall it impose tax on a company's undistributed profits, except as provided in paragraph 9, even if the dividends paid or the undistributed profits consist wholly or partly of profits or income arising in that Contracting State.

9 一方の締約国の居住者である法人で、他方の締約国内に恒久的施設を有するもの又は第六条若しくは第十三条1若しくは2の規定に従い他方の締約国においてその所得について租税を課されるものに対しては、当該他方の締約国において、この条約の他の規定に従って課される租税に加えて租税を課することができる。ただし、当該租税は、当該恒久的施設に帰せられる利得及び第六条又は第十三条1若しくは2の規定に従い当該他方の締約国において租税を課される所得のうち、これらの利得又は所得に係る活動が法律上独立した団体により行われたとしたならば支払われたとみられる配当の額に相当する所得の額に該当する部分についてのみ課することができる。この9の規定は、次のいずれかに該当する法人については適用しない。

(a) 第二十二條1(c)(i)又は(ii)に該当する法人

(b) 第二十二條1(f)(i)及び(ii)に規定する要件を満たす法人で、当該所得に関し同条2に規定する条件を満たすもの

(c) この9の規定の適用に関し、第二十二條4の規定により認定を受けたもの

10 9に規定する租税は、2(a)に規定する率を超えて課することができない。

11 一方の締約国の居住者が優先株式その他これに類する持分（以下この11において「優先株式等」という。）に関して他方の締約国の居住者から配当の支払を受ける場合において、次の(a)及び(b)に該当する者が当該優先株式等と同等の当該一方の締約国の居住者の優先株式等を有していないとしたならば、当該一方の締約国の居住者が当該配当の支払の基因となる優先株式等の発行を受け又はこれを所有することはなかったであろうと認められるときは、当該一方の締約国の居住者は、当該配当の受益者とはされない。

(a) 当該他方の締約国の居住者が支払う配当に関し、当該一方の締約国の居住者に対してこの条約により認められる特典と同等の又はそのような特典よりも有利な特典を受ける権利を有しないこと。

9. A company that is a resident of a Contracting State and that has a permanent establishment in the other Contracting State or that is subject to tax in that other Contracting State on its income that may be taxed in that other Contracting State under Article 6 or under paragraph 1 or 2 of Article 13 may be subject in that other Contracting State to a tax in addition to any tax that may be imposed in that other Contracting State in accordance with the other provisions of this Convention. Such tax, however, may be imposed on only the portion of the profits of the company attributable to the permanent establishment and the portion of the income referred to in the preceding provisions of this paragraph that is subject to tax under Article 6 or under paragraph 1 or 2 of Article 13 that represents the amount of such income that is equivalent to the amount of dividends that would have been paid if such activities had been conducted in a separate legal entity. The provisions of this paragraph shall not apply in the case of a company which:

(a) satisfies the conditions described in clause (1) or (11) of subparagraph (c) of paragraph 1 of Article 22;

(b) satisfies the conditions described in clauses (1) and (11) of subparagraph (f) of paragraph 1 of Article 22, provided that the company satisfies the conditions described in paragraph 2 of that Article with respect to the income; or

(c) has received a determination pursuant to paragraph 4 of Article 22 with respect to this paragraph.

10. The tax referred to in paragraph 9 shall not be imposed at a rate in excess of the rate specified in subparagraph (a) of paragraph 2.

11. A resident of a Contracting State shall not be considered the beneficial owner of dividends in respect of preferred stock or other similar interest if such preferred stock or other similar interest would not have been established or acquired unless a person:

(a) that is not entitled to benefits with respect to dividends paid by a resident of the other Contracting State which are equivalent to, or more favorable than, those available under this Convention to a resident of the first-mentioned Contracting State; and

(b) いずれの締約国の居住者でもないこと。

第十一条

1 一方の締約国内において生じ、他方の締約国の居住者に支払われる利子に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。

2 1の利子に対しては、当該利子が生じた締約国においても、当該締約国の法令に従って租税を課することができる。その租税の額は、当該利子の受益者が他方の締約国の居住者である場合には、当該利子の額の十パーセントを超えないものとする。

3 2の規定にかかわらず、一方の締約国内において生ずる利子であって、次のいずれかの場合に該当するものについては、他方の締約国においてのみ租税を課することができる。

(a) 当該利子の受益者が、当該他方の締約国、当該他方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体、当該他方の締約国の中央銀行又は当該他方の締約国が全面的に所有する機関である場合

(b) 当該利子の受益者が当該他方の締約国の居住者であって、当該利子が、当該他方の締約国の政府、当該他方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体、当該他方の締約国の中央銀行又は当該他方の締約国が全面的に所有する機関によって保証された債権、これらによって保険の引受けが行われた債権又はこれらによる間接融資に係る債権に関して支払われる場合

(c) 当該利子の受益者が、次のいずれかに該当する当該他方の締約国の居住者である場合

- (i) 銀行（投資銀行を含む）
- (ii) 保険会社
- (iii) 登録を受けた証券会社

(b) that is not a resident of either Contracting State;

held equivalent preferred stock or other similar interest in the first-mentioned resident.

ARTICLE 11

1. Interest arising in a Contracting State and paid to a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

2. However, such interest may also be taxed in the Contracting State in which it arises and according to the laws of that Contracting State, but if the beneficial owner of the interest is a resident of the other Contracting State, the tax so charged shall not exceed 10 percent of the gross amount of the interest.

3. Notwithstanding the provisions of paragraph 2, interest arising in a Contracting State shall be taxable only in the other Contracting State if:

(a) the interest is beneficially owned by that other Contracting State, a political subdivision or local authority thereof, or the central bank of that other Contracting State or any institution wholly owned by that other Contracting State;

(b) the interest is beneficially owned by a resident of that other Contracting State with respect to debt-claims guaranteed, insured or indirectly financed by the Government of that other Contracting State, a political subdivision or local authority thereof, or the central bank of that other Contracting State or any institution wholly owned by that other Contracting State;

(c) the interest is beneficially owned by a resident of that other Contracting State that is either:

- (i) a bank (including an investment bank);
- (ii) an insurance company;
- (iii) a registered securities dealer; or

(iv) (i)から(iii)までに掲げるもの以外の企業で、当該利子の支払が行われる課税年度の直前の三課税年度において、その負債の五十パーセントを超える部分が金融市場における債券の発行又は有利子預金から成り、かつ、その資産の五十パーセントを超える部分が当該居住者と第九条1(a)又は(b)にいう関係を有しない者に対する信用に係る債権から成るもの

(d) 当該利子の受益者が当該他方の締約国の居住者である年金基金であつて、当該利子が、当該年金基金が直接又は間接に事業を遂行することにより取得されたものでない場合

(e) 当該利子の受益者が当該他方の締約国の居住者であつて、当該利子が、当該他方の締約国の居住者により行われる信用供与による設備又は物品の販売の一環として生ずる債権に関して支払われる場合

4 3の規定の適用上、「中央銀行」及び「締約国が全面的に所有する機関」とは、次のものをいう。

(a) 日本国については、

(i) 日本銀行

(ii) 国際協力銀行

(iii) 独立行政法人日本貿易保険

(iv) 日本国が資本の全部を所有するその他の類似の機関で両締約国の政府が外交上の公文の交換により随時合意するもの

(b) 合衆国については、

(i) 連邦準備銀行

(ii) 合衆国輸出入銀行

(iv) any other enterprise, provided that in the three taxable years preceding the taxable year in which the interest is paid, the enterprise derives more than 50 percent of its liabilities from the issuance of bonds in the financial markets or from taking deposits at interest, and more than 50 percent of the assets of the enterprise consist of debt-claims against persons that do not have with the resident a relationship described in subparagraph (a) or (b) of paragraph 1 of Article 9;

(d) the interest is beneficially owned by a pension fund that is a resident of that other Contracting State, provided that such interest is not derived from the carrying on of a business, directly or indirectly, by such pension fund; or

(e) the interest is beneficially owned by a resident of that other Contracting State and paid with respect to indebtedness arising as a part of the sale on credit by a resident of that other Contracting State of equipment or merchandise.

4. For the purposes of paragraph 3, the terms "the central bank" and "institution wholly owned by a Contracting State" mean:

(a) in the case of Japan:

(i) the Bank of Japan;

(ii) the Japan Bank for International Cooperation;

(iii) the Nippon Export and Investment Insurance; and

(iv) such other similar institution the capital of which is wholly owned by Japan as may be agreed upon from time to time between the Governments of the Contracting States through an exchange of diplomatic notes.

(b) in the case of the United States:

(i) the Federal Reserve Banks;

(ii) the U.S. Export-Import Bank;

## 米国との租税（所得）条約

二五五六

(iii) 海外民間投資公社

(iv) 合衆国が資本の全部を所有するその他の類似の機関で両締約国の政府が外交上の公文の交換により随時合意するもの

5 この条において、「利子」とは、すべての種類の信用に係る債権（担保の有無及び債務者の利得の分配を受ける権利の有無を問わない。）から生じた所得、特に、公債、債券又は社債から生じた所得（公債、債券又は社債の割増金及び賞金を含む。）及びその他の所得で当該所得が生じた締約国の租税に関する法令上貸付金から生じた所得と同様に取り扱われるものをいう。前条で取り扱われる所得は、この条約の適用上利子には該当しない。

6 1 から3までの規定は、一方の締約国の居住者である利子の受益者が、当該利子の生じた他方の締約国内において当該他方の締約国内にある恒久的施設を通じて事業を行う場合において、当該利子の支払の基因となった債権が当該恒久的施設と実質的な関連を有するものであるときは、適用しない。この場合には、第七条の規定を適用する。

7 利子は、その支払者が一方の締約国の居住者である場合には、当該一方の締約国内において生じたものとされる。ただし、利子の支払者（いずれかの締約国の居住者であるか否かを問わない。）が、その者が居住者とされる国以外の国に恒久的施設を有する場合において、当該利子の支払の基因となった債務が当該恒久的施設について生じ、かつ、当該利子が当該恒久的施設によって負担されるものであるときは、次に定めるところによる。

(a) 当該恒久的施設が一方の締約国内にある場合には、当該利子は、当該一方の締約国内において生じたものとされる。

(b) 当該恒久的施設が両締約国以外の国にある場合には、当該利子は、いずれの締約国内においても生じなかったものとされる。

(iii) the Overseas Private Investment Corporation; and

(iv) such other similar institution the capital of which is wholly owned by the United States as may be agreed upon from time to time between the Governments of the Contracting States through an exchange of diplomatic notes.

5. The term "interest" as used in this Article means income from debt-claims of every kind, whether or not secured by mortgage and whether or not carrying a right to participate in the debtor's profits, and in particular, income from government securities and income from bonds or debentures, including premiums and prizes attaching to such securities, bonds or debentures, and all other income that is subjected to the same taxation treatment as income from money lent by the tax laws of the Contracting State in which the income arises. Income dealt with in Article 10 shall not be regarded as interest for the purposes of this Convention.

6. The provisions of paragraphs 1, 2 and 3 shall not apply if the beneficial owner of the interest, being a resident of a Contracting State, carries on business in the other Contracting State in which the interest arises, through a permanent establishment situated therein and the debt-claim in respect of which the interest is paid is effectively connected with such permanent establishment. In such case the provisions of Article 7 shall apply.

7. Interest shall be deemed to arise in a Contracting State when the payor is a resident of that Contracting State. Where, however, the person paying the interest, whether such person is a resident of a Contracting State or not, has in a state other than that of which such person is a resident a permanent establishment in connection with which the indebtedness on which the interest is paid was incurred, and such interest is borne by such permanent establishment, then:

(a) if the permanent establishment is situated in a Contracting State, such interest shall be deemed to arise in that Contracting State, and

(b) if the permanent establishment is situated in a state other than the Contracting States, such interest shall not be deemed to arise in either Contracting State.

8 利子の支払の基因となった債権について考慮した場合において、利子の支払者と受益者との間又はその双方と第三者との間の特別の関係により、当該利子の額が、その関係がないとしたならば支払者及び受益者が合意したとみられる額を超えるときは、この条の規定は、その合意したとみられる額についてのみ適用する。この場合には、支払われた額のうち当該超過分に対しては、当該利子の生じた締約国において当該超過分の額の五パーセントを超えない額の租税を課することができる。

9 2及び3の規定にかかわらず、一方の締約国は、不動産により担保された債権又はその他の資産の流動化を行うための団体の持分に関して支払われる利子の額のうち、当該一方の締約国の法令で規定されている比較可能な債券の利子の額を超える部分については、当該一方の締約国の法令に従って租税を課することができる。

10 一方の締約国の居住者である法人の所得のうち次の(a)又は(b)に該当するものの金額の計算上控除することができ、利子の額が、他方の締約国内にある当該法人の恒久的施設により支払われる利子の額又は他方の締約国内に存在する不動産により担保された債務に関して支払われる利子の額を超える場合には、当該超過分の額は、当該他方の締約国において生じ、かつ、当該一方の締約国の居住者が受益者である利子とみなされる。そのみなされた利子に対しては、当該法人が当該他方の締約国において租税が免除される3(a)から(e)までに規定する者に該当する場合を除くほか、当該他方の締約国において、2に規定する率を超えない率により租税を課することができる。

- (a) 当該恒久的施設に帰せられるもの
- (b) 第六条又は第十三条1若しくは2の規定に従って当該他方の締約国において租税を課されるもの

11 一方の締約国の居住者がある債権に関して他方の締約国の居住者から利子の支払を受ける場合において、次の(a)及び(b)に該当する者が当該債権と同等の債権を当該一方の締約国の居住者に対して有していないとしたならば、当該一方の締約国の居住者が当該利子の支払の基因となる債権を取得することはなかつたであろうと認められるときは、当該一方の締約国の居住者は、当該利子の受益者とはされない。

8. Where, by reason of a special relationship between the payor and the beneficial owner or between both of them and some other person, the amount of the interest, having regard to the debt-claim for which it is paid, exceeds the amount which would have been agreed upon by the payor and the beneficial owner in the absence of such relationship, the provisions of this Article shall apply only to the last-mentioned amount. In such case, the excess part of the payment may be taxed in the Contracting State in which it arises at a rate not to exceed 5 percent of the gross amount of the excess.

9. Notwithstanding the provisions of paragraphs 2 and 3, a Contracting State may tax, in accordance with its domestic law, interest paid with respect to the ownership interests in an entity used for the securitization of real estate mortgages or other assets, to the extent that the amount of interest paid exceeds the return on comparable debt instruments as specified by the domestic law of that Contracting State.

10. Where interest expense is deductible in determining the income of a company that is a resident of a Contracting State, being income which:

- (a) is attributable to a permanent establishment of that company situated in the other Contracting State; or
- (b) may be taxed in the other Contracting State under Article 6 or paragraph 1 or 2 of Article 13;

and that interest expense exceeds the interest paid by that permanent establishment or paid with respect to the debt secured by real property situated in that other Contracting State, the amount of that excess shall be deemed to be interest arising in that other Contracting State and beneficially owned by a resident of the first-mentioned Contracting State. That deemed interest may be taxed in that other Contracting State at a rate not to exceed the rate provided for in paragraph 2, unless the company is described in paragraph 3 in which case it shall be exempt from such taxation in that other Contracting State.

11. A resident of a Contracting State shall not be considered the beneficial owner of interest in respect of a debt-claim if such debt-claim would not have been established unless a person:

(a) 当該他方の締約国内において生ずる利子に関し、当該一方の締約国の居住者に対してこの条約により認められる特典と同等の又はそのような特典よりも有利な特典を受ける権利を有しないこと。

(b) いずれの締約国の居住者でもないこと。

第十二条

1 一方の締約国内において生じ、他方の締約国の居住者が受益者である使用料に対しては、当該他方の締約国においてのみ租税を課することができる。

2 この条において、「使用料」とは、文学上、芸術上若しくは学術上の著作物（映画フィルム及びラジオ放送用又はテレビジョン放送用のフィルム又はテープを含む。）の著作権、特許権、商標権、意匠、模型、図面、秘密方式若しくは秘密工程の使用若しくは使用の権利の対価として、又は産業上、商業上若しくは学術上の経験に関する情報の対価として受領されるすべての種類の支払金等をいう。

3 1の規定は、一方の締約国の居住者である使用料の受益者が、当該使用料の生じた他方の締約国内において当該他方の締約国内にある恒久的施設を通じて事業を行う場合において、当該使用料の支払の基因となつた権利又は財産が当該恒久的施設と実質的な関連を有するものであるときは、適用しない。この場合には、第七条の規定を適用する。

4 使用料の支払の基因となつた使用、権利又は情報について考慮した場合において、使用料の支払者と受益者との間又はその双方と第三者との間の特別の関係により、当該使用料の額が、その関係がないとしたならば支払者及び受益者が合意したとみられる額を超えるときは、この条の規定は、その合意したとみられる額についてのみ適用する。この場合には、支払われた額のうち当該超過分に対しては、当該使用料の生じた締約国において当該超過分の額の五パーセントを超えない額の租税を課することができる。

(a) that is not entitled to benefits with respect to interest arising in the other Contracting State which are equivalent to, or more favorable than, those available under this Convention to a resident of the first-mentioned Contracting State; and

(b) that is not a resident of either Contracting State;

held an equivalent debt-claim against the first-mentioned resident.

ARTICLE 12

1. Royalties arising in a Contracting State and beneficially owned by a resident of the other Contracting State may be taxed only in that other Contracting State.

2. The term "royalties" as used in this Article means payments of any kind received as a consideration for the use of, or the right to use, any copyright of literary, artistic or scientific work including cinematograph films and films or tapes for radio or television broadcasting, any patent, trade mark, design or model, plan, or secret formula or process, or for information concerning industrial, commercial or scientific experience.

3. The provisions of paragraph 1 shall not apply if the beneficial owner of the royalties, being a resident of a Contracting State, carries on business in the other Contracting State in which the royalties arise, through a permanent establishment situated therein, and the right or property in respect of which the royalties are paid is effectively connected with such permanent establishment. In such case the provisions of Article 7 shall apply.

4. Where, by reason of a special relationship between the payor and the beneficial owner or between both of them and some other person, the amount of the royalties, having regard to the use, right or information for which they are paid, exceeds the amount which would have been agreed upon by the payor and the beneficial owner in the absence of such relationship, the provisions of this Article shall apply only to the last-mentioned amount. In such case, the excess part of the payment may be taxed in the Contracting State in which it arises at a rate not to exceed 5 percent of the gross amount of the excess.

- 5 一方の締約国の居住者がある無体財産権の使用に關して他方の締約国の居住者から使用料の支払を受ける場合において、次の(a)及び(b)に該当する者が当該無体財産権と同一の無体財産権の使用に關して当該一方の締約国の居住者から使用料の支払を受けないとしたならば、当該一方の締約国の居住者が当該無体財産権の使用に關して当該他方の締約国の居住者から使用料の支払を受けることはなかつたであらうと認められるときは、当該一方の締約国の居住者は、当該使用料の受益者とはされない。
- (a) 当該他方の締約国内において生ずる使用料に關し、当該一方の締約国の居住者に対してこの条約により認められる特典と同等の又はそのような特典よりも有利な特典を受ける権利を有しないこと。
- (b) いずれの締約国の居住者でもないこと。

第十三条

- 1 一方の締約国の居住者が他方の締約国内に存在する不動産の譲渡によつて取得する収益に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。
- 2 (a) 一方の締約国の居住者が、他方の締約国の居住者である法人（その資産の価値の五十パーセント以上が当該他方の締約国内に存在する不動産により直接又は間接に構成される法人に限る）の株式その他同等の権利の譲渡によつて取得する収益に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。ただし、当該譲渡に係る株式と同じ種類の株式が第二十二条5(b)に規定する公認の有価証券市場において取引され、かつ、当該一方の締約国の居住者及びその特殊関係者の所有する当該種類の株式の数が当該種類の株式の総数の五パーセント以下である場合は、この限りでない。
- (b) 一方の締約国の居住者が組合、信託財産及び遺産の持分の譲渡によつて取得する収益に対しては、これらの資産が他方の締約国内に存在する不動産から成る部分に限り、当該他方の締約国において租税を課することができる。

5. A resident of a Contracting State shall not be considered the beneficial owner of royalties in respect of the use of intangible property if such royalties would not have been paid to the resident unless the resident pays royalties in respect of the same intangible property to a person:

- (a) that is not entitled to benefits with respect to royalties arising in the other Contracting State which are equivalent to, or more favorable than, those available under this Convention to a resident of the first-mentioned Contracting State; and
- (b) that is not a resident of either Contracting State.

ARTICLE 13

1. Gains derived by a resident of a Contracting State from the alienation of real property situated in the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.
2. (a) Gains derived by a resident of a Contracting State from the alienation of shares or other comparable rights in a company that is a resident of the other Contracting State and that derives at least 50 percent of its value directly or indirectly from real property situated in that other Contracting State may be taxed in that other Contracting State, unless the relevant class of shares is traded on a recognized stock exchange specified in subparagraph (b) of paragraph 5 of Article 22 and the resident, and persons related thereto, own in the aggregate 5 percent or less of that class of shares.
- (b) Gains derived by a resident of a Contracting State from the alienation of an interest in a partnership, trust or estate may be taxed in the other Contracting State to the extent that its assets consist of real property situated in that other Contracting State.

3 (a) 次の(i)及び(ii)に該当する場合において、一方の締約国の居住者が(ii)に規定する株式を譲渡（i)の資金援助が最初に行われた日から五年以内に行われる譲渡に限る）することによって取得する収益に対しては、他方の締約国において租税を課することができる。

(i) 当該他方の締約国（日本国については、預金保険機構を含む。以下この3において同じ。）が、当該他方の締約国の金融機関の差し迫った支払不能に係る破綻処理に関する法令に従って、当該他方の締約国の居住者である金融機関に対して実質的な資金援助を行うこと。

(ii) 当該一方の締約国の居住者が当該他方の締約国から当該金融機関の株式を取得すること。

(b) (a)の規定は、当該一方の締約国の居住者が、当該金融機関の株式を当該他方の締約国から、この条約の発効前に取得した場合又はこの条約の発効前に締結された拘束力のある契約に基づいて取得した場合には、適用しない。

4 2及び3の規定にかかわらず、一方の締約国の企業が他方の締約国内に有する恒久的施設の事業用資産を構成する財産（不動産を除く。）の譲渡から生ずる収益（当該恒久的施設の譲渡又は企業全体の譲渡の一部としての当該恒久的施設の譲渡から生ずる収益を含む。）に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。

5 一方の締約国の居住者が国際運輸に運用する船舶又は航空機及びこれらの船舶又は航空機の運用に係る財産（不動産を除く。）の譲渡によって当該居住者が取得する収益に対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

3. (a) Where

(i) a Contracting State (including, for this purpose in the case of Japan, the Deposit Insurance Corporation of Japan) provides, pursuant to the domestic law concerning failure resolution involving imminent insolvency of financial institutions in that Contracting State, substantial financial assistance to a financial institution that is a resident of that Contracting State, and

(ii) a resident of the other Contracting State acquires shares in the financial institution from the first-mentioned Contracting State, the first-mentioned Contracting State may tax gains derived by the resident of the other Contracting State from the alienation of such shares, provided that the alienation is made within five years from the first date on which such financial assistance was provided.

(b) The provisions of subparagraph (a) shall not apply if the resident of that other Contracting State acquired any shares in the financial institution from the first-mentioned Contracting State before the entry into force of this Convention or pursuant to a binding contract entered into before the entry into force of the Convention.

4. Notwithstanding the provisions of paragraphs 2 and 3, gains from the alienation of any property, other than real property, forming part of the business property of a permanent establishment which an enterprise of a Contracting State has in the other Contracting State, including such gains from the alienation of such a permanent establishment (alone or with the whole enterprise), may be taxed in that other Contracting State.

5. Gains derived by a resident of a Contracting State from the alienation of ships or aircraft operated by that resident in international traffic and any property, other than real property, pertaining to the operation of such ships or aircraft shall be taxable only in that Contracting State.

給与所得

- 6 一方の締約国の居住者がコンテナ（コンテナ運送のためのトレーラー、はしけ及び関連設備を含む）の譲渡によって取得する収益に対しては、当該コンテナが他方の締約国内においてのみ使用された場合を除くほか、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。
- 7 1 から6までに規定する財産以外の財産の譲渡から生ずる収益に対しては、譲渡者が居住者とされる締約国においてのみ租税を課することができる。

第十四条

- 1 次条、第十七条及び第十八条の規定が適用される場合を除くほか、一方の締約国の居住者がその勤務について取得する給料、賃金その他これらに類する報酬に対しては、勤務が他方の締約国内において行われない限り、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。勤務が他方の締約国内において行われる場合には、当該勤務から生ずる報酬に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。
- 2 1 の規定にかかわらず、一方の締約国の居住者が他方の締約国内において行う勤務について取得する報酬に対しては、次の(a)から(c)までに掲げる要件を満たす場合には、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。
- (a) 当該課税年度において開始又は終了するいずれの十二箇月の期間においても、報酬の受領者が当該他方の締約国内に滞在する期間が合計百八十三日を超えないこと。
- (b) 報酬が当該他方の締約国の居住者でない雇用者又はこれに代わる者から支払われるものであること。
- (c) 報酬が雇用者の当該他方の締約国内に有する恒久的施設によって負担されるものでないこと。
- 3 1 及び2の規定にかかわらず、一方の締約国の企業が国際運輸に運用する船舶又は航空機内において行われる勤務に係る報酬に対しては、当該一方の締約国において租税を課することができる。

6. Gains derived by a resident of a Contracting State from the alienation of containers, including trailers, barges and related equipment for the transport of containers, shall be taxable only in that Contracting State except where such containers were used solely within the other Contracting State.
7. Gains from the alienation of any property other than that referred to in the preceding paragraphs of this Article shall be taxable only in the Contracting State of which the alienator is a resident.

ARTICLE 14

1. Subject to the provisions of Articles 15, 17 and 18, salaries, wages and other similar remuneration derived by a resident of a Contracting State in respect of an employment shall be taxable only in that Contracting State unless the employment is exercised in the other Contracting State. If the employment is so exercised, such remuneration as is derived therefrom may be taxed in that other Contracting State.
2. Notwithstanding the provisions of paragraph 1, remuneration derived by a resident of a Contracting State in respect of an employment exercised in the other Contracting State shall be taxable only in the first-mentioned Contracting State if:
- (a) the recipient is present in that other Contracting State for a period or periods not exceeding in the aggregate 183 days in any twelve month period commencing or ending in the taxable year concerned;
- (b) the remuneration is paid by, or on behalf of, an employer who is not a resident of that other Contracting State; and
- (c) the remuneration is not borne by a permanent establishment which the employer has in that other Contracting State.
3. Notwithstanding the provisions of the preceding paragraphs of this Article, remuneration derived in respect of an employment exercised aboard a ship or aircraft operated in international traffic by an enterprise of a Contracting State may be taxed in that Contracting State.

米国の租税（所得）条約

役員報酬

第十五条

一方の締約国の居住者が他方の締約国の居住者である法人の役員の資格で取得する役員報酬その他これに類する支払金に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。

第十六条

芸能人

1 一方の締約国の居住者である個人が演劇、映画、ラジオ若しくはテレビジョンの俳優、音楽家その他の芸能人又は運動家として他方の締約国内で行う個人的活動によって取得する所得（第七条及び第十四条の規定に基づき当該他方の締約国において租税を免除される所得に限る。）に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。ただし、当該芸能人又は運動家がそのような個人的活動によって取得した総収入の額（当該芸能人若しくは運動家に対して弁償される経費又は当該芸能人若しくは運動家に代わって負担される経費を含む。）が当該課税年度において一万合衆国ドル又は日本円によるその相当額を超えない場合は、この限りでない。

2 一方の締約国内で行う芸能人又は運動家としての個人的活動に関する所得が当該芸能人又は運動家以外の者（他方の締約国の居住者に限る。）に帰属する場合には、当該所得に対しては、第七条及び第十四条の規定にかかわらず、当該個人的活動が行われる当該一方の締約国において租税を課することができる。ただし、そのような個人的活動に関する契約において、当該所得が帰属する者が当該個人的活動を行う芸能人又は運動家を指名することができる場合は、この限りでない。

第十七条

退職年金  
及び保険  
年金

1 次条2の規定が適用される場合を除くほか、一方の締約国の居住者が受益者である退職年金その他これに類する報酬（社会保障制度に基づく給付を含む。）に対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

ARTICLE 15

Directors' fees and other similar payments derived by a resident of a Contracting State in his capacity as a member of the board of directors of a company which is a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.

ARTICLE 16

1. Income derived by an individual who is a resident of a Contracting State as an entertainer, such as a theater, motion picture, radio or television artiste, or a musician, or as a sportsman, from his personal activities as such exercised in the other Contracting State, which income would be exempt from tax in that other Contracting State under the provisions of Articles 7 and 14, may be taxed in that other Contracting State, except where the amount of the gross receipts derived by such entertainer or sportsman, including expenses reimbursed to him or borne on his behalf, from such activities does not exceed ten thousand United States dollars (\$10,000) or its equivalent in Japanese yen for the taxable year concerned.

2. Where income in respect of personal activities exercised in a Contracting State by an individual in his capacity as an entertainer or a sportsman accrues not to the individual himself but to another person that is a resident of the other Contracting State, that income may, notwithstanding the provisions of Articles 7 and 14, be taxed in the Contracting State in which the activities of the individual are exercised, unless the contract pursuant to which the personal activities are performed allows that other person to designate the individual who is to perform the personal activities.

ARTICLE 17

1. Subject to the provisions of paragraph 2 of Article 18, pensions and other similar remuneration, including social security payments, beneficially owned by a resident of a Contracting State shall be taxable only in that Contracting State.

2 一方の締約国の居住者が受益者である保険年金に対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。この2において「保険年金」とは、適正かつ十分な対価（役務の提供を除く。）に応ずる給付を行う義務に従い、終身にわたり又は特定の若しくは確定することができる期間中、所定の時期において定期的に所定の金額が支払われるものをいう。

3 書面による別居若しくは離婚に関する合意又は別居、離婚等に伴う扶養料等に関する司法上の決定に基づいて行われる配偶者若しくは配偶者であった者又は子に対する定期的な金銭の支払であって、一方の締約国の居住者から他方の締約国の居住者に支払われるものに対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。ただし、当該支払が、当該一方の締約国において当該支払を行う個人の課税所得の計算上控除することができない場合には、いずれの締約国においても租税を課することができない。

第十八条

1 (a) 政府の職務の遂行として一方の締約国又は一方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体に対し提供される役務につき、個人に対し当該一方の締約国又は当該一方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体によって支払われる給料、賃金その他これらに類する報酬（退職年金その他これに類する報酬を除く。）に対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

(b) もつとも、当該役務が他方の締約国内において提供され、かつ、当該個人が次の(i)又は(ii)に該当する当該他方の締約国の居住者である場合には、その給料、賃金その他これらに類する報酬に対しては、当該他方の締約国においてのみ租税を課することができる。

- (i) 当該他方の締約国の国民
- (ii) 専ら当該役務を提供するため当該他方の締約国の居住者となった者でないもの

2. Annuities derived and beneficially owned by an individual who is a resident of a Contracting State shall be taxable only in that Contracting State. The term “annuities” as used in this paragraph means a stated sum paid periodically at stated times during the life of the individual, or during a specified or ascertainable period of time, under an obligation to make the payments in return for adequate and full consideration (other than services rendered).

3. Periodic payments, made pursuant to a written separation agreement or a decree of divorce, separate maintenance, or compulsory support, including payments for the support of a child, paid by a resident of a Contracting State to a resident of the other Contracting State shall be taxable only in the first-mentioned Contracting State. However, such payments shall not be taxable in either Contracting State if the individual making such payments is not entitled to a deduction for such payments in computing taxable income in the first-mentioned Contracting State.

ARTICLE 18

1. (a) Salaries, wages and other similar remuneration, other than a pension and other similar remuneration, paid by a Contracting State or a political subdivision or local authority thereof to an individual in respect of services rendered to that Contracting State or political subdivision or local authority thereof, in the discharge of functions of a governmental nature, shall be taxable only in that Contracting State.

(b) However, such salaries, wages and other similar remuneration shall be taxable only in the other Contracting State if the services are rendered in that other Contracting State and the individual is a resident of that other Contracting State who:

- (i) is a national of that other Contracting State; or
- (ii) did not become a resident of that other Contracting State solely for the purpose of rendering the services.

2 (a) 一方の締約国又は一方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体に対し提供される役務につき、個人に対し、当該一方の締約国若しくは当該一方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体によって支払われ、又は当該一方の締約国若しくは当該一方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体が拠出した基金から支払われる退職年金その他これに類する報酬（社会保障に関する法令又はこれに類する法令の規定に基づき合衆国によって支払われる給付を除く。）に対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

(b) もっとも、当該個人が他方の締約国の居住者であり、かつ、当該他方の締約国の国民である場合には、当該退職年金その他これに類する報酬に対しては、当該他方の締約国においてのみ租税を課することができる。

3 一方の締約国又は一方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体の行う事業に関連して提供される役務につき支払われる給料、賃金その他これらに類する報酬及び退職年金その他これに類する報酬については、第十四条から前条までの規定を適用する。

第十九条

教育又は訓練を受けることを主たる目的として一方の締約国内に滞在する学生又は事業修習者であつて、現に他方の締約国の居住者であるもの又はその滞在の直前に他方の締約国の居住者であつたものがその生計、教育又は訓練のために受け取る給付（当該一方の締約国外から支払われる給付に限る。）については、当該一方の締約国において租税を免除する。この条に規定する租税の免除は、事業修習者については、当該一方の締約国において最初に訓練を開始した日から一年を超えない期間についてのみ適用する。

第二十条

1 一方の締約国内にある大学、学校その他の教育機関において教育又は研究を行うため当該一方の締約国内に一時的に滞在する個人であつて、他方の締約国において第四条1にいう居住者に引き続き該当するものが、その教育又は研究につき取得する報酬については、当該一方の締約国に到着した日から二年を超えない期間当該一方の締約国において租税を免除する。

2. (a) Any pension and other similar remuneration paid by, or out of funds to which contributions are made by, a Contracting State or a political subdivision or local authority thereof to an individual in respect of services rendered to that Contracting State or a political subdivision or local authority thereof, other than payments made by the United States under provisions of the social security or similar legislation, shall be taxable only in that Contracting State.

(b) However, such pension and other similar remuneration shall be taxable only in the other Contracting State if the individual is a resident of, and a national of, that other Contracting State.

3. The provisions of Articles 14, 15, 16 and 17 shall apply to salaries, wages and other similar remuneration, and to pensions and other similar remuneration, in respect of services rendered in connection with a business carried on by a Contracting State or a political subdivision or local authority thereof.

ARTICLE 19

Payments which a student or business apprentice who is, or was immediately before visiting a Contracting State, a resident of the other Contracting State and who is present in the first-mentioned Contracting State for the primary purpose of his education or training receives for the purpose of his maintenance, education or training shall be exempt from tax in the first-mentioned Contracting State, provided that such payments are made to him from outside that first-mentioned Contracting State. The exemption from tax provided by this Article shall apply to a business apprentice only for a period not exceeding one year from the date he first begins his training in the first-mentioned Contracting State.

ARTICLE 20

1. An individual who visits a Contracting State temporarily for the purpose of teaching or conducting research at a university, college, school or other educational institution in that Contracting State, and who continues to be a resident, within the meaning of paragraph 1 of Article 4, of the other Contracting State, shall be exempt from tax in the first-mentioned Contracting State on any remuneration for such teaching or research for a period not exceeding two years from the date of his arrival.

2 1の規定は、主として一又は二以上の特定の者の私的利益のために行われる研究から生ずる所得については、適用しない。

第二十一条

1 一方の締約国の居住者が受益者である所得（源泉地を問わない。）で前各条に規定がないもの（以下「その他の所得」という。）に対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

2 1の規定は、一方の締約国の居住者である所得（不動産から生ずる所得を除く。）の受益者が、他方の締約国内において当該他方の締約国内にある恒久的施設を通じて事業を行う場合において、当該所得の支払の基因となった権利又は財産が当該恒久的施設と実質的な関連を有するものであるときは、当該所得については、適用しない。この場合には、第七条の規定を適用する。

3 その他の所得の支払の基因となった権利又は財産について考慮した場合において、1に規定する一方の締約国の居住者と支払者との間又はその双方と第三者との間の特別の関係により、当該その他の所得の額が、その関係がないとしたならば当該居住者及び当該支払者が合意したとみられる額を超えるときは、この条の規定は、その合意したとみられる額についてのみ適用する。この場合には、支払われた額のうち当該超過分に対しては、当該その他の所得が生じた締約国において当該超過分の額の五パーセントを超えない額の租税を課することができる。

4 一方の締約国の居住者がある権利又は財産に関して他方の締約国の居住者からその他の所得の支払を受ける場合において、次の(a)及び(b)に該当する者が当該権利又は財産と同一の権利又は財産に関して当該一方の締約国の居住者からその他の所得の支払を受けないとしたならば、当該一方の締約国の居住者が当該権利又は財産に関して当該他方の締約国の居住者からその他の所得の支払を受けることはなかったであろうと認められるときは、当該一方の締約国の居住者は、当該その他の所得の受益者とはされない。

(a) 当該他方の締約国内において生ずるその他の所得に關し、当該一方の締約国の居住者に対してこの条約により認められる特典と同等の又はそのような特典よりも有利な特典を受ける権利を有しないこと。

(b) いずれの締約国の居住者でもないこと。

2. The provisions of paragraph 1 shall not apply to income from research if such research is undertaken primarily for the private benefit of one or more specific persons.

ARTICLE 21

1. Items of income beneficially owned by a resident of a Contracting State, wherever arising, not dealt with in the foregoing Articles of this Convention (hereinafter referred to as "other income") shall be taxable only in that Contracting State.

2. The provisions of paragraph 1 shall not apply to income, other than income from real property, if the beneficial owner of such income, being a resident of a Contracting State, carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein and the right or property in respect of which the income is paid is effectively connected with such permanent establishment. In such case the provisions of Article 7 shall apply.

3. Where, by reason of a special relationship between the resident referred to in paragraph 1 and the payor, or between both of them and some other person, the amount of other income, having regard to the right or property in respect of which it is paid, exceeds the amount which would have been agreed upon between them in the absence of such relationship, the provisions of this Article shall apply only to the last-mentioned amount. In such case, the excess part of the payment may be taxed in the Contracting State in which it arises at a rate not to exceed 5 percent of the gross amount of the excess.

4. A resident of a Contracting State shall not be considered the beneficial owner of other income in respect of the right or property if such other income would not have been paid to the resident unless the resident pays other income in respect of the same right or property to a person:

(a) that is not entitled to benefits with respect to other income arising in the other Contracting State which are equivalent to, or more favorable than, those available under this Convention to a resident of the first-mentioned Contracting State; and

(b) that is not a resident of either Contracting State.

米国の租税（所得）条約

二五六六

特典の制限

第二十二条

1 一方の締約国の居住者で他方の締約国において所得を取得するものは、この条約の特典を受けるために別に定める要件を満たし、かつ、次の(a)から(f)までに掲げる者のいずれかに該当する場合に限り、各課税年度において、この条約の特典（この条約の他の条の規定により締約国の居住者に対して認められる特典に限る。以下この条において同じ。）を受ける権利を有する。ただし、この条約の特典を受けることに關し、この条に別段の定めがある場合は、この限りでない。

(a) 個人

(b) 当該一方の締約国、当該一方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体、日本銀行又は連邦準備銀行

(c) 法人のうち、次の(i)又は(ii)に該当するもの

(i) その主たる種類の株式及び不均一分配株式が、5 (b) (i) 又は(ii)に規定する公認の有価証券市場に上場又は登録され、かつ、一又は二以上の公認の有価証券市場において通常取引される法人

(ii) その各種類の株式の五十パーセント以上が、五以下の当該一方の締約国の居住者である(i)に規定する法人により直接又は間接に所有されている法人（その株式が間接に所有されている場合には、各中間所有者がこの1に規定する者のみである法人に限る。）

(d) 第四条1(c)に規定する者

(e) 年金基金（当該課税年度の直前の課税年度の終了の日においてその受益者、構成員又は参加者の五十パーセントを超えるものがいずれかの締約国の居住者である個人である年金基金に限る。）

(f) 個人以外の者で次の(i)及び(ii)の要件を満たすもの

ARTICLE 22

1. Except as otherwise provided in this Article, a resident of a Contracting State that derives income from the other Contracting State shall be entitled to all the benefits accorded to residents of a Contracting State for a taxable year by the provisions of other Articles of this Convention only if such resident satisfies any other specified conditions for the obtaining of such benefits and is either:

(a) an individual;

(b) a Contracting State, any political subdivision or local authority thereof, the Bank of Japan or the Federal Reserve Banks;

(c) a company, if:

(i) the principal class of its shares, and any disproportionate class of its shares, is listed or registered on a recognized stock exchange specified in clause (i) or (ii) of subparagraph (b) of paragraph 5 and is regularly traded on one or more recognized stock exchanges; or

(ii) at least 50 percent of each class of shares in the company is owned directly or indirectly by five or fewer residents entitled to benefits under clause (i), provided that, in the case of indirect ownership, each intermediate owner is a person entitled to the benefits of this Convention under this paragraph;

(d) a person described in subparagraph (c) of paragraph 1 of Article 4;

(e) a pension fund, provided that as of the end of the prior taxable year more than 50 percent of its beneficiaries, members or participants are individuals who are residents of either Contracting State; or

(f) a person other than an individual, if:

(i) その者の各種別の株式その他の受益に関する持分の五十パーセント以上が、(a)、(b)、(c) (i)、(d) 又は (e) に掲げる当該一方の締約国の居住者により直接又は間接に所有されていること。

(ii) 当該課税年度におけるその者の総所得のうち、その者が居住者とされる締約国におけるその者の課税所得の計算上控除することができる支出により、いずれの締約国の居住者にも該当しない者に対し、直接又は間接に支払われた、又は支払われるべきものの額の占める割合が、五十パーセント未満であること。ただし、当該支出には、事業の通常の方法において行われる役務又は有体財産に係る支払（独立の企業の間に行われる価格による支払に限る。）及び商業銀行に対する金融上の債務に係る支払（当該銀行がいずれの締約国の居住者でもない場合には、当該支払に係る債権がいずれかの締約国内にある当該銀行の恒久的施設に帰せられるときに限る。）は含まれない。

2. (a) 一方の締約国の居住者は、他方の締約国において取得するそれぞれの所得に関し、当該居住者が当該一方の締約国内において営業又は事業の活動に従事しており、当該所得が当該営業又は事業の活動に関連又は付随して取得されるものであり、及び当該居住者がこの条約の特典を受けるために別に定める要件を満たすことを条件として、この条約の特典を受ける権利を有する。ただし、当該営業又は事業の活動が、当該居住者が自己の勘定のために投資を行い又は管理する活動（商業銀行、保険会社又は登録を受けた証券会社が行う銀行業、保険業又は証券業の活動を除く。）である場合は、この限りでない。

(1) residents that are described in subparagraph (a), (b), (d) or (e), or clause (i) of subparagraph (c), own, directly or indirectly, at least 50 percent of each class of shares or other beneficial interests in the person, and

(ii) less than 50 percent of the person's gross income for the taxable year is paid or accrued by the person in that taxable year, directly or indirectly, to persons who are not residents of either Contracting State in the form of payments that are deductible in computing its taxable income in the Contracting State of which it is a resident (but not including arm's length payments in the ordinary course of business for services or tangible property and payments in respect of financial obligations to a commercial bank, provided that where such a bank is not a resident of a Contracting State such payment is attributable to a permanent establishment of that bank situated in one of the Contracting States).

2. (a) A resident of a Contracting State shall be entitled to benefits of this Convention with respect to an item of income derived from the other Contracting State if the resident is engaged in the first-mentioned Contracting State in the active conduct of a trade or business, other than the business of making or managing investments for the resident's own account, unless these activities are banking, insurance or securities activities carried on by a commercial bank, insurance company or registered securities dealer, the income derived from the other Contracting State is derived in connection with, or is incidental to, that trade or business and that resident satisfies any other specified conditions for the obtaining of such benefits.

(b) 一方の締約国の居住者が、他方の締約国内における営業若しくは事業の活動から所得を取得する場合又は当該居住者と第九条 1 (a) 若しくは (b) にいう関係を有する者から他方の締約国内において生ずる所得を取得する場合には、当該居住者が当該一方の締約国内において行う営業又は事業の活動が、当該居住者又は当該関係を有する者が当該他方の締約国内において行う営業又は事業の活動との関係において実質的なものでなければ、当該所得について (a) に規定する条件を満たすこととはならない。この (b) の規定の適用上、営業又は事業の活動が実質的なものであるか否かは、すべての事実及び状況に基づいて判断される。

3 (a) 源泉徴収による課税については 1 (c) (iii) の規定を適用する場合には、一方の締約国の居住者が、その所得の支払が行われる日（配当については、当該配当の支払を受ける者が特定される日）が課税年度終了の日である場合には当該課税年度を通じて、当該支払が行われる日が課税年度終了の日以外の日である場合には当該課税年度中の当該支払が行われる日に先立つ期間及び当該課税年度の直前の課税年度を通じて、1 (c) (iii) に規定する要件を満たしているときに、当該居住者は当該支払が行われる課税年度について当該要件を満たすものとする。

(b) 1 (f) (i) の規定を適用する場合には、次に定めるところによる。

(i) 源泉徴収による課税については、一方の締約国の居住者が、その所得の支払が行われる日（配当については、当該配当の支払を受ける者が特定される日）が課税年度終了の日である場合には当該課税年度を通じて、当該支払が行われる日が課税年度終了の日以外の日である場合には当該課税年度中の当該支払が行われる日に先立つ期間及び当該課税年度の直前の課税年度を通じて、1 (f) (i) に規定する要件を満たしているときに、当該居住者は当該支払が行われる課税年度について当該要件を満たすものとする。

(b) If a resident of a Contracting State derives an item of income from a trade or business activity in the other Contracting State, or derives an item of income arising in the other Contracting State from a person that has with the resident a relationship described in subparagraph (a) or (b) of paragraph 1 of Article 9, the conditions described in subparagraph (a) shall be considered to be satisfied with respect to such item only if the trade or business activity carried on by the resident in the first-mentioned Contracting State is substantial in relation to the trade or business activity carried on by the resident or such person in the other Contracting State. Whether a trade or business activity is substantial for the purposes of this paragraph will be determined based on all the facts and circumstances.

3. (a) Where the provisions of clause (ii) of subparagraph (c) of paragraph 1 apply in respect of taxation by withholding at source, a resident of a Contracting State shall be considered to satisfy the conditions described in that clause for a taxable year in which the payment is made if such resident satisfies those conditions during the part of that taxable year which precedes the date of payment of the item of income (or, in the case of dividends, the date on which entitlement to the dividends is determined) and, unless that date is the last day of that taxable year, during the whole of the preceding taxable year.

(b) Where the provisions of clause (i) of subparagraph (f) of paragraph 1 apply:

(i) in respect of taxation by withholding at source, a resident of a Contracting State shall be considered to satisfy the conditions described in that clause for a taxable year in which the payment is made if such resident satisfies those conditions during the part of that taxable year which precedes the date of payment of the item of income (or, in the case of dividends, the date on which entitlement to the dividends is determined) and, unless that date is the last day of that taxable year, during the whole of the preceding taxable year; and

(iii) その他のすべての場合については、一方の締約国の居住者は、その所得の支払が行われる課税年度の総日数の半数以上の日において 1 (f) (ii) に規定する要件を満たしているときに、当該支払が行われる課税年度について当該要件を満たすものとする。

(c) 日本国における源泉徴収による課税について 1 (f) (iii) の規定を適用する場合には、合衆国の居住者は、その所得の支払が行われる課税年度の直前の三課税年度について 1 (f) (ii) に規定する要件を満たしているときに、当該支払が行われる課税年度について当該要件を満たすものとする。

4 一方の締約国の居住者は、1 (a) から (f) までに掲げる者のいずれにも該当せず、かつ、2 の規定に基づきある所得についてこの条約の特典を受ける権利を有する場合に該当しないときにおいても、この条約により認められる特典についての要求を受ける締約国の権限のある当局が、当該締約国の法令又は行政上の慣行に従って、当該居住者の設立、取得又は維持及びその業務の遂行がこの条約の特典を受けることをその主たる目的の一つとするものでないと認定するときは、この条約の特典を受けることができる。

5 この条の適用上、

(a) 「不均一分配株式」とは、一方の締約国の居住者である法人の株式で、その条件その他の取決め内容により、当該株式を所有する者が、当該条件その他の取決め内容が定められていないとした場合に比し、当該法人が他方の締約国において取得する所得の分配をより多く受ける権利を有するものをいう。

(b) 「公認の有価証券市場」とは、次のものをいう。

(i) 日本国の証券取引法（昭和二十三年法律第二十五号）に基づき設立された有価証券市場

(ii) in all other cases, a resident of a Contracting State shall be considered to satisfy the conditions described in that clause for a taxable year in which the payment is made if such resident satisfies those conditions on at least half the days of the taxable year.

(c) Where the provisions of clause (ii) of subparagraph (f) of paragraph 1 apply in respect of taxation by withholding at source in Japan, a resident of the United States shall be considered to satisfy the conditions described in that subparagraph for a taxable year in which the payment is made if such resident satisfies those conditions for the three taxable years preceding that taxable year.

4. A resident of a Contracting State that is not described in paragraph 1 and is not entitled to benefits with respect to an item of income under paragraph 2 shall, nevertheless, be granted benefits of this Convention if the competent authority of the Contracting State from which benefits are claimed determines, in accordance with its domestic law or administrative practice, that the establishment, acquisition or maintenance of such resident and the conduct of its operations are considered as not having the obtaining of benefits under the Convention as one of its principal purposes.

5. For the purposes of this Article:

(a) the term "disproportionate class of shares" means any class of shares of a company that is a resident of a Contracting State which is subject to terms or other arrangements that entitle the holders of that class of shares to a portion of the income of the company derived from the other Contracting State that is larger than the portion such holders would receive absent such terms or arrangements;

(b) the term "recognized stock exchange" means:

(i) any stock exchange established under the terms of the Securities and Exchange Law (Law No. 25 of 1948) of Japan;

米国との租税（所得）条約

二五七〇

- (ii) ナスダック市場及び合衆国の千九百三十四年証券取引法に基づき証券取引所として証券取引委員会に登録された有価証券市場
- (iii) その他の有価証券市場で両締約国の権限のある当局が合意するもの
- (c) 「総所得」とは、一方の締約国の居住者がその事業から取得する総収入の額から当該収入を得るために直接に要した費用の額を差し引いた残額をいう。

第二十三条

二重課税の除去

- 1 日本国以外の国において納付される租税を日本国の租税から控除することに関する日本国の法令の規定に従い、
- (a) 日本国の居住者がこの条約の規定に従って合衆国において租税を課される所得を合衆国において取得する場合には、当該所得について納付される合衆国の租税の額は、当該居住者に対して課される日本国の租税の額から控除する。ただし、控除の額は、日本国の租税の額のうち当該所得に対応する部分を超えないものとする。
- (b) 合衆国において取得される所得が、合衆国の居住者である法人により、その議決権のある株式の十パーセント以上を配当の支払義務が確定する日に先立つ六箇月の期間を通じて所有する日本国の居住者である法人に対して支払われる配当である場合には、日本国の租税からの控除を行うに当たり、当該配当を支払う法人によりその所得について納付される合衆国の租税を考慮に入れるものとする。

この1の規定の適用上、日本国の居住者が受益者である所得でこの条約の規定に従って合衆国において租税を課されるものは、合衆国内の源泉から生じたものとみなす。

- (ii) the NASDAQ System and any stock exchange registered with the Securities and Exchange Commission as a national securities exchange under the Securities Exchange Act of 1934 of the United States; and
- (iii) any other stock exchange agreed upon by the competent authorities; and
- (c) the term "gross income" means the total revenues derived by a resident of a Contracting State from its business, less the direct costs of obtaining such revenues.

ARTICLE 23

1. Subject to the provisions of the laws of Japan regarding the allowance as a credit against the Japanese tax of tax payable in any country other than Japan:

- (a) Where a resident of Japan derives income from the United States which may be taxed in the United States in accordance with the provisions of this Convention, the amount of the United States tax payable in respect of that income shall be allowed as a credit against the Japanese tax imposed on that resident. The amount of credit, however, shall not exceed that part of the Japanese tax which is appropriate to that income.
- (b) Where the income derived from the United States is dividends paid by a company which is a resident of the United States to a company which is a resident of Japan and which owns not less than 10 percent of the voting shares issued by the company paying the dividends during the period of six months immediately before the day when the obligation to pay dividends is confirmed, the credit shall take into account the United States tax payable by the company paying the dividends in respect of its income.

For the purposes of this paragraph, income beneficially owned by a resident of Japan which may be taxed in the United States in accordance with the Convention shall be deemed to arise from sources in the United States.

2 合衆国は、合衆国の法令（その一般原則を変更することなく随時行われる改正の後のものを含む）の規定及び当該法令上の制限に従い、合衆国の居住者又は市民に対し、次のものを合衆国の租税から控除することを認める。

- (a) 当該市民若しくは居住者又はこれらに代わる者により支払われた、又は支払われるべき日本国の租税
- (b) 合衆国の居住者である法人で、日本国の居住者である法人の議決権のある株式の十パーセント以上を所有し、当該日本国の居住者である法人から配当の支払を受けるものについては、当該配当に充てられる利得に関して当該日本国の居住者である法人又はこれに代わる者により支払われた、又は支払われるべき日本国の租税

この2の規定の適用上、第二条1(a)及び2に規定する租税は、当該所得の受益者に課された日本国の租税とみなす。この2の規定の適用上、合衆国の居住者が取得する合衆国の法令に基づき総所得の項目とされる所得で、この条約の規定に従って日本国において租税を課されるものは、日本国内に源泉があるものとみなす。

3 1及び2の規定の適用上、第一条4の規定に従い、合衆国が日本国の居住者である合衆国の市民又は市民であった者若しくは長期居住者とされる者に対して租税を課する場合には、次に定めるところによる。

- (a) 日本国は、1の規定に従って行われる控除の額の計算上、合衆国が合衆国の市民又は市民であった者若しくは長期居住者とされる者でない日本国の居住者が取得した所得に対しこの条約の規定に従って課することができる租税の額のみを考慮に入れるものとする。

2. In accordance with the provisions and subject to the limitations of the laws of the United States (as it may be amended from time to time without changing the general principle hereof), the United States shall allow to a resident or citizen of the United States as a credit against the United States tax on income:

- (a) the Japanese tax paid or accrued by or on behalf of such citizen or resident; and
- (b) in the case of a company that is a resident of the United States and that owns at least 10 percent of the voting stock of a company that is a resident of Japan and from which the first-mentioned company receives dividends, the Japanese tax paid or accrued by or on behalf of the payor with respect to the profits out of which the dividends are paid.

For the purposes of this paragraph, the taxes referred to in subparagraph (a) of paragraph 1 and paragraph 2 of Article 2 shall be considered Japanese taxes imposed on the beneficial owner of the income. For the purposes of this paragraph, an item of gross income, as determined under the laws of the United States, derived by a resident of the United States that, under this Convention, may be taxed in Japan shall be deemed to be income from sources in Japan.

3. For the purposes of applying the preceding paragraphs of this Article, where the United States taxes, in accordance with paragraph 4 of Article 1, a citizen, or a former citizen or long-term resident, of the United States who is a resident of Japan:

- (a) Japan shall take into account for the purposes of computing the credit to be allowed under paragraph 1 only the amount of tax that the United States may impose on income under the provisions of this Convention that is derived by a resident of Japan who is neither a citizen, nor a former citizen nor long-term resident, of the United States;

(b) (a)に規定する所得に対する合衆国の租税の計算上、合衆国は、(a)の規定に従って控除を行った後の日本国の租税を合衆国の租税から控除することを認める。そのようにして認められた控除は、(a)の規定に従って日本国の租税から控除される合衆国の租税の額を減額させないものとする。

(c) (a)に規定する所得は、(b)の規定に従って合衆国が控除を認める場合においてのみ、当該控除を認めるために必要な範囲に限り、日本国内において生じたものとみなす。

第二十四条

1 一方の締約国の国民は、他方の締約国において、特にすべての所得（当該一方の締約国内に源泉のある所得であるか否かを問わない。）について租税を課される者であるか否かに関し、同様の状況にある当該他方の締約国の国民に課されており若しくは課されることがある租税若しくはこれに関連する要件以外の又はこれらよりも重い租税若しくはこれに関連する要件を課されることはない。この1の規定は、いずれの締約国の居住者でもない者にも、適用する。

2 一方の締約国の企業が他方の締約国内に有する恒久的施設に対する租税は、当該他方の締約国において、同様の活動を行う当該他方の締約国の企業に対して課される租税よりも不利に課されることはない。この2の規定は、一方の締約国に対し、家族の状況又は家族を扶養するための負担を理由として当該一方の締約国の居住者に認める租税上の人的控除、救済及び軽減を他方の締約国の居住者に認めることを義務付けるものと解してはならない。

(b) for the purposes of computing the United States tax on income referred to in subparagraph (a), the United States shall allow as a credit against the United States tax the Japanese tax after the credit referred to in that subparagraph; the credit so allowed shall not reduce the portion of the United States tax that is creditable against the Japanese tax in accordance with that subparagraph; and

(c) for the exclusive purpose of allowing the credit by the United States provided for under subparagraph (b), income referred to in subparagraph (a) shall be deemed to arise in Japan to the extent necessary to allow the United States to grant the credit provided for in subparagraph (b).

ARTICLE 24

1. Nationals of a Contracting State shall not be subjected in the other Contracting State to any taxation or any requirement connected therewith, which is other or more burdensome than the taxation and connected requirements to which nationals of that other Contracting State in the same circumstances, in particular with respect to taxation on worldwide income, are or may be subjected. The provisions of this paragraph shall also apply to persons who are not residents of one or both of the Contracting States.

2. The taxation on a permanent establishment which an enterprise of a Contracting State has in the other Contracting State shall not be less favorably levied in that other Contracting State than the taxation levied on enterprises of that other Contracting State carrying on the same activities. The provisions of this paragraph shall not be construed as obliging a Contracting State to grant to residents of the other Contracting State any personal allowances, reliefs and reductions for taxation purposes on account of civil status or family responsibilities which it grants to its own residents.

3 第九条1、第十一条8、第十二条4又は第二十一条3の規定が適用される場合を除くほか、一方の締約国の居住者が他方の締約国の居住者に支払った利子、使用料その他の支払金については、当該一方の締約国の居住者の課税対象利得の決定に当たって、当該一方の締約国の居住者に支払われたとした場合における条件と同様の条件で控除するものとする。また、一方の締約国の居住者の他方の締約国の居住者に対する債務については、当該一方の締約国の居住者の課税対象財産の決定に当たって、当該一方の締約国の居住者に対する債務であるとした場合における条件と同様の条件で控除するものとする。

4 一方の締約国の企業であつてその資本の全部又は一部が他方の締約国の一又は二以上の居住者により直接又は間接に所有され又は支配されているものは、当該一方の締約国において、当該一方の締約国の類似の他の企業に課されており若しくは課されることがある租税若しくはこれに関連する要件以外の又はこれらよりも重い租税若しくはこれに関連する要件を課されることはない。

5 この条のいかなる規定も、いずれかの締約国が第十条9又は第十一条10に規定する租税を課することを妨げるものと解してはならない。

6 この条の規定は、第二条及び第三条1(d)の規定にかかわらず、一方の締約国又は一方の締約国の地方政府若しくは地方公共団体によつて課されるすべての種類の租税に適用する。

第二十五条

1 一方の又は双方の締約国の措置によりこの条約の規定に適合しない課税を受けたと認める者又は受けることになると認める者は、当該事案について、当該一方の又は双方の締約国の法令に定める救済手段とは別に、自己が居住者である締約国の権限のある当局に対して又は当該事案が前条1の規定の適用に関するものである場合には自己が国民である締約国の権限のある当局に対して、申立てをすることができ。当該申立ては、この条約の規定に適合しない課税に係る措置の最初の通知の日から三年以内に、しなければならない。

3. Except where the provisions of paragraph 1 of Article 9, paragraph 8 of Article 11, paragraph 4 of Article 12, or paragraph 3 of Article 21 apply, interest, royalties and other disbursements paid by a resident of a Contracting State to a resident of the other Contracting State shall, for the purposes of determining the taxable profits of the first-mentioned resident, be deductible under the same conditions as if they had been paid to a resident of the first-mentioned Contracting State. Similarly, any debts of a resident of a Contracting State to a resident of the other Contracting State shall, for the purposes of determining the taxable capital of the first-mentioned resident, be deductible under the same conditions as if they had been contracted to a resident of the first-mentioned Contracting State.

4. Enterprises of a Contracting State, the capital of which is wholly or partly owned or controlled, directly or indirectly, by one or more residents of the other Contracting State, shall not be subjected in the first-mentioned Contracting State to any taxation or any requirement connected therewith which is other or more burdensome than the taxation and connected requirements to which other similar enterprises of the first-mentioned Contracting State are or may be subjected.

5. Nothing in this Article shall be construed as preventing either Contracting State from imposing a tax as described in paragraph 9 of Article 10 or paragraph 10 of Article 11.

6. The provisions of this Article shall, notwithstanding the provisions of Article 2 and subparagraph (d) of paragraph 1 of Article 3, apply to taxes of every kind and description imposed by a Contracting State or a political subdivision or local authority thereof.

ARTICLE 25

1. Where a person considers that the actions of one or both of the Contracting States result or will result for him in taxation not in accordance with the provisions of this Convention, he may, irrespective of the remedies provided by the domestic law of those Contracting States, present his case to the competent authority of the Contracting State of which he is a resident or, if his case comes under paragraph 1 of Article 24, to that of the Contracting State of which he is a national. The case must be presented within three years from the first notification of the action resulting in taxation not in accordance with the provisions of the Convention.

2 権限のある当局は、1の申立てを正当と認めるが、満足すべき解決を与えることができない場合には、この条約の規定に適合しない課税を回避するため、他方の締約国の権限のある当局との合意によって当該事案を解決するよう努める。成立したすべての合意は、両締約国の法令上のいかなる期間制限その他の手続上の制限（当該合意を実施するための手続上の制限を除く。）にもかかわらず、実施されなければならない。

3 両締約国の権限のある当局は、この条約の解釈又は適用に關して生ずる困難又は疑義を合意によって解決するよう努める。特に、両締約国の権限のある当局は、次の事項について合意することができる。

- (a) 一方の締約国の企業が他方の締約国内に有する恒久的施設への所得、所得控除、税額控除その他の租税の減免の帰属
  - (b) 二以上の者の間における所得、所得控除、税額控除その他の租税の減免の配分
  - (c) この条約の適用に關する相違（次に掲げる事項に關する相違を含む。）の解消
    - (i) 特定の所得の分類
    - (ii) 者の分類
    - (iii) 特定の所得に対する源泉に關する規則の適用
    - (iv) この条約において用いられる用語の意義
  - (d) 事前価格取決め
- 両締約国の権限のある当局は、また、この条約に定めのない場合における二重課税を除去するため、相互に協議することができる。

4 両締約国の権限のある当局は、2及び3の合意に達するため、直接相互に通信することができ、

2. The competent authority shall endeavor, if the objection appears to it to be justified and if it is not itself able to arrive at a satisfactory solution, to resolve the case by mutual agreement with the competent authority of the other Contracting State, with a view to the avoidance of taxation which is not in accordance with the provisions of this Convention. Any agreement reached shall be implemented notwithstanding any time limits or other procedural limitations in the domestic law of the Contracting States, except such limitations as apply for the purposes of giving effect to such an agreement.

3. The competent authorities of the Contracting States shall endeavor to resolve by mutual agreement any difficulties or doubts arising as to the interpretation or application of this Convention. In particular the competent authorities of the Contracting States may agree:

- (a) to the same attribution of income, deductions, credits, or allowances of an enterprise of a Contracting State to its permanent establishment situated in the other Contracting State;
- (b) to the same allocation of income, deductions, credits, or allowances between persons;
- (c) to the settlement of conflicting application of the Convention, including conflicts regarding:
  - (i) the characterization of particular items of income;
  - (ii) the characterization of persons;
  - (iii) the application of source rules with respect to particular items of income; and
  - (iv) the meaning of any term used in the Convention; and
- (d) to advance pricing arrangements.

They may also consult together for the elimination of double taxation in cases not provided for in the Convention.

4. The competent authorities of the Contracting States may communicate with each other directly for the purposes of reaching an agreement in the sense of the preceding paragraphs of this Article.

第二十六条

1 両締約国の権限のある当局は、この条約の規定又は両締約国が課するすべての種類の租税に関する両締約国の法令（当該法令に基づく課税がこの条約の規定に反しない場合に限る。）の規定の実施に関連する情報を交換する。情報の交換は、第一条1の規定による制限を受けない。一方の締約国の権限のある当局から特に要請があった場合には、他方の締約国の権限のある当局は、文書（帳簿書類、計算書、記録その他の書類を含む。）の原本の写しに認証を付した形式で、この条に基づく情報の提供を行う。

2 1の規定に基づき一方の締約国が受領した情報は、当該一方の締約国がその法令に基づいて入手した情報と同様に秘密として取り扱うものとし、1に規定する租税の賦課、徴収若しくは管理、これらの租税に関する執行若しくは訴追若しくはこれらの租税に関する不服申立てについての決定に関与する者若しくは当局（裁判所及び行政機関を含む。）又は監督機関に対してのみ、かつ、これらの者若しくは当局又は監督機関がそれぞれの職務を遂行するために必要な範囲でのみ、開示される。これらの者若しくは当局又は監督機関は、当該情報をそれぞれの職務の遂行のためにのみ使用する。これらの者若しくは当局又は監督機関は、当該情報を公開の法廷における審理又は司法上の決定において開示することができる。

3 1及び2の規定は、いかなる場合にも、一方の締約国に対し、次のことを行う義務を課するものと解してはならない。

- (a) 当該一方の締約国又は他方の締約国の法令及び行政上の慣行に抵触する行政上の措置をとるため。
- (b) 当該一方の締約国又は他方の締約国の法令の下において又は行政の通常の運営において入手することができない情報を提供すること。
- (c) 営業上、事業上、産業上、商業上若しくは職業上若しくは取引の過程を明らかにするような情報又は公開することが公の秩序に反することになる情報を提供すること。

ARTICLE 26

1. The competent authorities of the Contracting States shall exchange such information as is relevant for carrying out the provisions of this Convention or of the domestic law of the Contracting States concerning taxes of every kind and description imposed by a Contracting State insofar as the taxation thereunder is not contrary to the provisions of the Convention. The exchange of information is not restricted by paragraph 1 of Article 1. If specifically requested by the competent authority of a Contracting State, the competent authority of the other Contracting State shall provide information under this Article in the form of authenticated copies of original documents (including books, papers, statements, records, accounts, and writings).

2. Any information received under paragraph 1 by a Contracting State shall be treated as secret in the same manner as information obtained under the domestic law of that Contracting State and shall be disclosed only to persons or authorities (including courts and administrative bodies) involved in the assessment, collection or administration of, the enforcement or prosecution in respect of, or the determination of appeals in relation to, the taxes referred to in the first sentence of paragraph 1, or to supervisory bodies, and only to the extent necessary for those persons, authorities or supervisory bodies to perform their respective responsibilities. Such persons, authorities or supervisory bodies shall use the information only for the purposes of discharging such responsibilities. They may disclose the information in public court proceedings or in judicial decisions.

3. In no case shall the provisions of the preceding paragraphs of this Article be construed so as to impose on a Contracting State the obligation:

- (a) to carry out administrative measures at variance with the laws and administrative practice of that or of the other Contracting State;
- (b) to supply information which is not obtainable under the laws or in the normal course of the administration of that or of the other Contracting State;
- (c) to supply information which would disclose any trade, business, industrial, commercial or professional secret or trade process, or information, the disclosure of which would be contrary to public policy (ordre public).

4 各締約国は、1に規定する情報の交換を実効あるものとするため、当該締約国が自らの課税のために必要とするか否かを問わず、当該締約国の権限のある当局に対し、当該情報の交換のために情報を入手する十分な権限を当該締約国の法令上付与することを確保するために必要な措置（立法、規則の制定及び行政上の措置を含む。）を講ずる。

5 この条の規定は、第二条及び第三条1(d)の規定にかかわらず、一方の締約国が課するすべての種類の租税（その課税がこの条約の規定に反しない場合に限る。）に適用する。

第二十七条

1 各締約国は、この条約に基づいて他方の締約国の認める租税の免除又は税率の軽減が、このような特典を受ける権利を有しない者によつて享受されることのないようにするため、当該他方の締約国が課する租税を徴収するよう努める。その徴収を行う締約国は、このようにして徴収された金額につき当該他方の締約国に対して責任を負う。

2 1の規定は、いかなる場合にも、1の租税を徴収するよう努めるいずれの締約国に対しても、当該締約国の法令及び行政上の慣行に抵触し又は公の秩序に反することになる行政上の措置をこる義務を課するものと解してはならない。

第二十八条

この条約のいかなる規定も、国際法の一般原則又は特別の協定に基づく外交使節団又は領事機関の構成員の租税上の特権に影響を及ぼすものではない。

4. In order to effectuate the exchange of information as provided in paragraph 1, each Contracting State shall take necessary measures, including legislation, rule-making, or administrative arrangement, to ensure that its competent authority has sufficient powers under its domestic law to obtain information for the exchange of information regardless of whether that Contracting State may need such information for purposes of its own tax.

5. The provisions of this Article shall, notwithstanding the provisions of Article 2 and subparagraph (d) of paragraph 1 of Article 3, apply to taxes of every kind and description imposed by a Contracting State insofar as the taxation thereunder is not contrary to the provisions of this Convention.

ARTICLE 27

1. Each of the Contracting States shall endeavor to collect such taxes imposed by the other Contracting State as will ensure that any exemption or reduced rate of tax granted under this Convention by that other Contracting State shall not be enjoyed by persons not entitled to such benefits. The Contracting State making such collections shall be responsible to the other Contracting State for the sums thus collected.

2. In no case shall the provisions of paragraph 1 be construed so as to impose upon either of the Contracting States endeavoring to collect the taxes the obligation to carry out administrative measures at variance with the laws and administrative practice of that Contracting State or which would be contrary to the public policy (ordre public) of that Contracting State.

ARTICLE 28

Nothing in this Convention shall affect the fiscal privileges of members of diplomatic missions or consular posts under the general rules of international law or under the provisions of special agreements.

第二十九条

一方の締約国が他方の締約国においてこの条約に関連する法令に実質的な改正が行われたと認める場合又は行われることとなると認める場合には、当該一方の締約国は、当該改正がこの条約上の特典の均衡に及ぼし得る効果を決定するため、及び適当な場合にはこの条約上の特典について適当な均衡に到達するためにこの条約の規定を改正するため、当該他方の締約国に対し書面により協議の要請をすることができ、当該要請を受けた締約国は、当該要請を受けた日から三箇月以内に、当該要請をした締約国と協議を行う。

第三十条

1 この条約は、批准されなければならない。批准書は、できる限り速やかに交換されるものとする。この条約は、批准書の交換の日に効力を生ずる。

2 この条約は、次のものについて適用する。

(a) 日本国においては、

(i) 源泉徴収される租税に関しては、

(aa) この条約がある年の三月三十一日以前に効力を生ずる場合には、その年の七月一日以後に租税を課される額

(ab) この条約がある年の四月一日以後に効力を生ずる場合には、その年の翌年の一月一日以後に租税を課される額

(ii) 源泉徴収されない所得に対する租税及び事業税に関しては、この条約が効力を生ずる年の翌年の一月一日以後に開始する各課税年度の所得

ARTICLE 29

If a Contracting State considers that a substantial change in the laws relevant to this Convention has been or will be made in the other Contracting State, the first-mentioned Contracting State may make a request to that other Contracting State in writing for consultations with a view to determining the possible effect of such change on the balance of benefits provided by the Convention and, if appropriate, to amending the provisions of the convention to arrive at an appropriate balance of benefits. The requested Contracting State shall enter into consultations with the requesting Contracting State within three months from the date on which the request is received by the requested Contracting State.

ARTICLE 30

1. This Convention shall be subject to ratification, and the instruments of ratification shall be exchanged as soon as possible. It shall enter into force on the date of the exchange of instruments of ratification.

2. This Convention shall be applicable:

(a) in Japan:

(i) with respect to taxes withheld at source:

(aa) for amounts taxable on or after July 1 of the calendar year in which the Convention enters into force, if the Convention enters into force before April 1 of a calendar year; or

(ab) for amounts taxable on or after January 1 of the calendar year next following the year in which the Convention enters into force, if the Convention enters into force after March 31 of a calendar year; and

(ii) with respect to taxes on income which are not withheld at source and the enterprise tax, as regards income for any taxable year beginning on or after January 1 of the calendar year next following that in which the Convention enters into force; and

## 米国との租税（所得）条約

二五七八

(b) 合衆国においては、

(i) 源泉徴収される租税に関しては、

(ii) この条約がある年の三月三十一日以前に効力を生ずる場合には、その年の七月一日以後に支払われ又は貸記される額

(iii) この条約がある年の四月一日以後に効力を生ずる場合には、その年の翌年の一月一日以後に支払われ又は貸記される額

(iv) その他の租税に関しては、この条約が効力を生ずる年の翌年の一月一日以後に開始する各課税期間

3 この条約の効力発生の時において千九百七十一年三月八日に東京で署名された所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本国とアメリカ合衆国との間の条約（以下この条において「旧条約」という。）第十九条又は第二十条の規定による特典を受ける権利を有する個人は、この条約が効力を生じた後においても、旧条約がなお効力を有するとした場合に当該特典を受ける権利を失う時まで当該特典を受ける権利を引き続き有する。

4 旧条約は、1及び2の規定に従ってこの条約が適用される租税につき、この条約の適用の日以後、適用しない。ただし、旧条約により特典を受ける権利がこの条約により特典を受ける権利より一層有利な者については、その者の選択により、旧条約の適用を選択しなかったとしたならば2の規定によりこの条約が適用されたであろう日から十二箇月の間、旧条約を全体として引き続き適用する。旧条約は、租税に関しこの4の規定に従って適用される最後の日に終了する。

(b) in the United States:

(i) with respect to taxes withheld at source:

(aa) for amounts paid or credited on or after July 1 of the calendar year in which the Convention enters into force, if the Convention enters into force before April 1 of a calendar year; or

(bb) for amounts paid or credited on or after January 1 of the calendar year next following the date on which the Convention enters into force, if the Convention enters into force after March 31 of a calendar year; and

(ii) with respect to other taxes, for taxable periods beginning on or after January 1 of the calendar year next following the date on which the Convention enters into force.

3. Notwithstanding the entry into force of this Convention, an individual who was entitled to the benefits of Article 19 or 20 of the Convention between Japan and the United States of America for the Avoidance of Double Taxation and the Prevention of Fiscal Evasion with respect to Taxes on Income, signed on March 8, 1971 (hereinafter referred to as "the prior Convention") at the time of the entry into force of this Convention shall continue to be entitled to such benefits until such time as the individual would cease to be entitled to such benefits if the prior Convention remained in force.

4. The prior Convention shall cease to have effect in relation to any tax from the date on which this Convention has effect in relation to that tax in accordance with paragraphs 1 and 2. Notwithstanding the preceding provisions of this paragraph, where any person entitled to benefits under the prior Convention would have been entitled to greater benefits thereunder than under this Convention, the prior Convention shall, at the election of such person, continue to have effect in its entirety for the period of twelve months from the date on which the provisions of this Convention otherwise would have effect under paragraph 2. The prior Convention shall terminate on the last date on which it has effect in relation to any tax in accordance with the preceding provisions of this paragraph.

第三十一条

この条約は、一方の締約国によつて終了させられる時まで効力を有する。いずれの一方の締約国も、この条約の効力発生の日から五年の期間が満了した後に、外交上の経路を通じて、他方の締約国に対し六箇月前に書面による終了の通告を行うことにより、この条約を終了させることができる。この場合には、この条約は、次のものにつき効力を失う。

(a) 日本国においては、

(i) 源泉徴収される租税に関しては、当該六箇月の期間が満了した年の翌年の一月一日以後に租税を課される額

(ii) 源泉徴収されない所得に対する租税及び事業税に関しては、当該六箇月の期間が満了した年の翌年の一月一日以後に開始する各課税年度の所得

(b) 合衆国においては、

(i) 源泉徴収される租税に関しては、当該六箇月の期間が満了した年の翌年の一月一日以後に支払われ又は貸記される額

(ii) その他の租税に関しては、当該六箇月の期間が満了した年の翌年の一月一日以後に開始する各課税期間

以上の証拠として、下名は、各自の政府から正当に委任を受けてこの条約に署名した。

二十三年十一月六日にワシントンで、ひとしく正文である日本語及び英語により本書二通を作成した。

ARTICLE 31

This Convention shall remain in force until terminated by a Contracting State. Either Contracting State may terminate the Convention after the expiration of a period of five years from the date of its entry into force, by giving to the other Contracting State, through the diplomatic channel, six months prior written notice of termination. In such event, the Convention shall cease to have effect:

(a) in Japan:

(i) with respect to taxes withheld at source, for amounts taxable on or after January 1 of the calendar year next following the expiration of the six month period; and

(ii) with respect to taxes on income which are not withheld at source and the enterprise tax, as regards income for any taxable year beginning on or after January 1 of the calendar year next following the expiration of the six month period; and

(b) in the United States:

(i) with respect to taxes withheld at source, for amounts paid or credited on or after January 1 of the calendar year next following the expiration of the six month period; and

(ii) with respect to other taxes, for taxable periods beginning on or after January 1 of the calendar year next following the expiration of the six month period.

IN WITNESS WHEREOF the undersigned, being duly authorized thereto by their respective Governments, have signed this Convention.

DONE in duplicate at Washington this sixth day of November, 2003, in the Japanese and English languages, each text being equally authentic.

米国との租税（所得）条約

日本国政府のために

加藤良三

アメリカ合衆国政府のために

ジョン・W・スノー

FOR THE GOVERNMENT  
OF JAPAN:

Ryozo Kato

FOR THE GOVERNMENT  
OF THE UNITED STATES  
OF AMERICA:

John W. Snow

所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の条約（以下「条約」という。）の署名に当たり、日本国政府及びアメリカ合衆国政府は、条約の不可分の一部を成す次の規定を協定した。

1 条約第二条の規定にかかわらず、

(a) 外国保険業者の発行した保険証券に対する合衆国の消費税は、日本国の企業が行う保険事業の収入となる保険料（当該企業が負担する当該保険料に係る危険のうち、条約又は当該消費税の免除を規定する合衆国が締結する他の租税条約の特典を受ける権利を有しない者により再保険される部分に係る保険料を除く。）に係る保険証券又は再保険証券に対しては、課することができない。

(b) 民間財団に関する合衆国の消費税は、

(i) 日本国において設立された団体であつて合衆国の民間財団に該当するものが取得する配当又は利益に対しては、それぞれ条約第十条及び第十一条に規定する率を超える率では、課することができない。

(ii) 日本国において設立された団体であつて合衆国の民間財団に該当するものが取得する使用料又はその他の所得に対しては、課することができない。

2 条約第三条 1 (e) に関し、「法人以外の団体」には、遺産、信託財産及び組合を含む。

3 条約第三条 1 (ii) に関し、年金基金は、日本国の法人税法（昭和四十年法律第三十四号）第八条若しくは第十条の二又は同法附則第二十条第一項に規定する租税が課される場合においても、条約第三条 1 (ii) にいう活動に関して租税を免除される者として取り扱われることが了解される。

PROTOCOL

At the signing of the Convention between the Government of Japan and the Government of the United States of America for the Avoidance of Double Taxation and the Prevention of Fiscal Evasion with respect to Taxes on Income (hereinafter referred to as "the Convention"), the Government of Japan and the Government of the United States of America have agreed upon the following provisions, which shall form an integral part of the Convention.

1. Notwithstanding the provisions of Article 2 of the Convention:

(a) the United States excise tax on insurance policies issued by foreign insurers shall not be imposed on insurance or reinsurance policies, the premiums on which are the receipts of a business of insurance carried on by an enterprise of Japan, to the extent that the risks covered by such premiums are not reinsured with a person not entitled to the benefits of the Convention or any other tax convention entered into by the United States that provides exemption from such tax; and

(b) the United States excise tax with respect to private foundations shall not be imposed on:

(i) dividends or interest derived by private foundations organized in Japan at a rate in excess of the rates provided for in Articles 10 and 11 of the Convention, respectively; and

(ii) royalties or other income derived by private foundations organized in Japan.

2. With reference to subparagraph (e) of paragraph 1 of Article 3 of the Convention, the term "any other body of persons" includes an estate, trust, and partnership.

3. With reference to subparagraph (m) of paragraph 1 of Article 3 of the Convention, it is understood that a pension fund shall be treated as exempt from tax with respect to the activities described in clause (ii) of that subparagraph even though it is subject to the tax stipulated in Articles 8 or 10-2 of the Corporation Tax Law (Law No. 34 of 1965) of Japan or paragraph 1 of Article 20 of its supplementary provisions.

4 一般に、一方の締約国の企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内において事業を行っていた場合において、当該企業が当該恒久的施設を通じて当該他方の締約国内において事業を行うことをやめた後、当該恒久的施設に帰せられる利得を得たときは、当該利得に対しては、条約第七条に定める原則に従って、当該他方の締約国において租税を課することができる。

5 条約第九条に関し、企業の利得の決定に当たって、同条にいう独立企業原則は、一般に、当該企業とその関連企業との間の取引の条件と独立の企業との取引の条件との比較に基づいて適用されることが了解される。また、比較可能性に影響を与える要因には次のものが含まれることが了解される。

- (a) 移転された財産又は役務の特性
- (b) 当該企業及びその関連企業が使用する資産及び引き受ける危険を考慮した上での当該企業及びその関連企業の機能
- (c) 当該企業とその関連企業との間の契約条件
- (d) 当該企業及びその関連企業の経済状況
- (e) 当該企業及びその関連企業が遂行する事業戦略

6 条約第十条4及び5に関し、合衆国の不動産投資信託（9において「不動産投資信託」という。）又は日本国における課税所得の計算上受益者に対して支払う配当を控除することができる法人は、その有するいずれの不動産の持分の価値も、その有する不動産の持分の全体の十パーセントを超えない場合に、分散投資しているものとされる。この6の適用上、譲渡担保財産として取得した不動産であって受戻権が消滅したものは、不動産の持分とはされない。これらの者が組合の持分を保有している場合には、これらの者は、当該組合が有する不動産の持分を、これらの者が有する当該組合の持分の割合に応じて直接に所有するものとして取り扱う。

4. In general, where an enterprise of a Contracting State which has carried on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein, receives, after the enterprise has ceased to carry on business as aforesaid, profits attributable to the permanent establishment, such profits may be taxed in that other Contracting State in accordance with the principles stated in Article 7 of the Convention.

5. With reference to Article 9 of the Convention, it is understood that, in determining the profits of an enterprise, application of the arm's length principle under that Article is generally based on a comparison of the conditions in the transaction made between the enterprise and an enterprise associated with it and the conditions in transactions between independent enterprises. It is also understood that the factors affecting comparability shall include:

- (a) the characteristics of the property or services transferred;
- (b) the functions of the enterprise and the enterprise associated with it, taking into account the assets used and risks assumed by the enterprise and the enterprise associated with it;
- (c) the contractual terms between the enterprise and the enterprise associated with it;
- (d) the economic circumstances of the enterprise and the enterprise associated with it; and
- (e) the business strategies pursued by the enterprise and the enterprise associated with it.

6. With reference to paragraphs 4 and 5 of Article 10 of the Convention, a United States Real Estate Investment Trust (hereinafter referred to as a "REIT") or a company which is entitled to a deduction for dividends paid to its beneficiaries in computing its taxable income in Japan is "diversified" if the value of no single interest in real property exceeds 10 percent of the total interests of such person in real property. For purposes of this paragraph, foreclosure property will not be considered an interest in real property. Where such person holds an interest in a partnership, it shall be treated as owing directly a proportion of the partnership's interests in real property corresponding to the proportion of its interest in the partnership.

7 条約第十条 9 に関し、同条 9 に規定する活動が法律上独立した団体により行われたとしたならば支払われたとみられる配当の額に相当する所得の額は、各課税年度において、当該活動から生ずる税引き後の所得の額に、同条 9 に規定する租税を課する締約国における当該法人の投資の額の変動を考慮に入れて調整を加えた額とすることが了解される。

8 一方の締約国の居住者が支払う有価証券の貸付けに関連する料金、保証料及び融資枠契約に係る手数料で他方の締約国の居住者が受益者であるものに対しては、当該他方の締約国においてのみ租税を課することができる。ただし、当該受益者が当該一方の締約国内において当該一方の締約国内にある恒久的施設を通じて事業を行う場合において、当該有価証券の貸付けに関連する料金、保証料及び融資枠契約に係る手数料が当該恒久的施設に帰せられ、又は当該有価証券の貸付けに関連する料金、保証料及び融資枠契約に係る手数料の支払の基因となった権利が当該恒久的施設と実質的な関連を有するものであるときは、この限りでない。

9 条約第十三条に関し、不動産投資信託が合衆国内に存在する不動産の譲渡によって取得する収益に基づいて行う分配に対しては、同条 1 の規定に従って租税を課することができることが了解される。

10 (a) 条約第十四条に関し、ストックオプション制度に基づき被用者が享受する利益でストックオプションの付与から行使までの期間に関連するものは、同条の適用上「その他これらに類する報酬」とされることが了解される。

(b) さらに、被用者が次の(i)から(iv)までに掲げる要件を満たす場合には、二重課税を回避するため、ストックオプションの行使の時に当該被用者が居住者とならない締約国は、当該利益のうち当該被用者が勤務を当該締約国内において行った期間中当該ストックオプションの付与から行使までの期間に関連する部分についてのみ租税を課することができることが了解される。

(i) 当該被用者が、その勤務に関して当該ストックオプションを付与されたこと。

(ii) 当該被用者が、当該ストックオプションの付与から行使までの期間中両締約国内において勤務を行ったこと。

(iii) 当該被用者が、当該行使の日において勤務を行っていること。

(iv) 当該被用者が、両締約国の法令に基づき両締約国において当該利益について租税を課されることになること。

7. With reference to paragraph 9 of Article 10 of the Convention, it is understood that the amount of such income that is equivalent to the amount of dividends that would have been paid if such activities had been conducted in a separate legal entity shall be, for any taxable year, the after-tax earnings from the company's activities described in that paragraph, adjusted to take into account changes in the company's investment in the Contracting State imposing the tax referred to in that paragraph.

8. Fees received in connection with a loan of securities, guarantee fees and commitment fees paid by a resident of a Contracting State and beneficially owned by a resident of the other Contracting State shall be taxable only in that other Contracting State unless the beneficial owner of such fees carries on business in the first-mentioned Contracting State through a permanent establishment situated therein and such fees are attributable to, or the right in respect of which such fees are paid is effectively connected with, such permanent establishment.

9. With reference to Article 13 of the Convention, it is understood that distributions made by a REITP shall be taxable under paragraph 1 of that Article, to the extent that they are attributable to gains derived from the alienation by the REITP of real property situated in the United States.

10. (a) With reference to Article 14 of the Convention, it is understood that the benefits enjoyed by employees under stock option plans relating to the period between grant and exercise of an option are regarded as "other similar remuneration" for the purposes of that Article.

(b) It is further understood that where an employee:

(i) has been granted a stock option in the course of an employment;

(ii) has exercised that employment in both Contracting States during the period between grant and exercise of the option;

(iii) remains in that employment at the date of the exercise; and

(iv) under the domestic law of the Contracting States, would be taxable in both Contracting States in respect of such benefits,

除去されない二重課税を生じさせないため、両締約国の権限のある当局は、このようなストックオプション制度に関連する条約第十四条及び第二十三条の解釈又は適用に關して生ずる困難又は疑義を、条約第二十五条の規定に基づく合意によって解決するよう努める。

11 条約第二十二條 1(c)に關し、ある課税年度の直前の課税年度中に一又は二以上の公認の有価証券市場において取引されたある種類の株式の總数が当該直前の課税年度中の当該株式の発行済株式の總数の平均の六パーセント以上である場合には、当該株式は、当該課税年度において一又は二以上の公認の有価証券市場において通常取引されるものとされる。

12 条約第二十二條 2に關し、同條 2の規定に基づきある者が一方の締約国内において營業又は事業の活動に従事しているか否かを決定するに当たつて、その者が組合員である組合が行う活動及びその者に關連する者が行う活動は、その者が行うものとみなす。一方の者が他方の者の受益に關する持分の五十パーセント以上（法人の場合には、当該法人の株式の議決権及び価値の五十パーセント以上）を所有する場合又は第三者がそれぞれの者の受益に關する持分の五十パーセント以上（法人の場合には、当該法人の株式の議決権及び価値の五十パーセント以上）を直接又は間接に所有する場合には、一方の者は他方の者に關連するものとする。

then, in order to avoid double taxation, a Contracting State of which, at the time of the exercise of the option, the employee is not a resident may tax only that proportion of such benefits which relates to the period or periods between grant and exercise of the option during which the individual has exercised the employment in that Contracting State. With the aim of ensuring that no unrelieved double taxation arises the competent authorities of the Contracting States shall endeavor to resolve by mutual agreement under Article 25 of the Convention any difficulties or doubts arising as to the interpretation or application of Articles 14 and 23 of the Convention in relation to such stock option plans.

11. With reference to subparagraph (c) of paragraph 1 of Article 22 of the Convention, the shares in a class of shares are considered to be regularly traded on one or more recognized stock exchanges in a taxable year if the aggregate number of shares of that class traded on such stock exchange or exchanges during the preceding taxable year is at least 6 percent of the average number of shares outstanding in that class during that preceding taxable year.

12. With reference to paragraph 2 of Article 22 of the Convention, in determining whether a person is "engaged ... in the active conduct of a trade or business" in a Contracting State under that paragraph, activities conducted by a partnership in which such person is a partner and activities conducted by persons connected to such person shall be deemed to be conducted by such person. A person shall be connected to another if one possesses at least 50 percent of the beneficial interest in the other (or, in the case of a company, at least 50 percent of the aggregate vote and value of the company's shares) or if another person possesses, directly or indirectly, at least 50 percent of the beneficial interest (or, in the case of a company, at least 50 percent of the aggregate vote and value of the company's shares) in each person.

13 (a) 条約の適用上、合衆国は、匿名組合契約又はこれに類する契約によって設立された仕組みを日本国の居住者でないものとして取り扱い、かつ、当該仕組みに従って取得される所得を当該仕組みの参加者によって取得されないものとして取り扱うことができる。この場合には、当該仕組み又は当該仕組みの参加者のいずれも、当該仕組みに従って取得される所得について条約の特典を受ける権利を有しない。

(b) 条約のいかなる規定も、日本国が、匿名組合契約又はこれに類する契約に基づいてある者が支払う利益の分配でその者の日本国における課税所得の計算上控除されるものに対して、日本国の法令に従って、源泉課税することを妨げるものではない。

以上の証拠として、下名は、各自の政府から正当に委任を受けてこの議定書に署名した。

二十三年十一月六日にワシントンで、ひとしく正文である日本語及び英語により本書二通を作成した。

日本国政府のために

加藤良三

アメリカ合衆国政府のために

ジョン・W・スノー

13. (a) For the purposes of applying the Convention, the United States may treat an arrangement created by a sleeping partnership (Tokumei Kumtai) contract or similar contract as not a resident of Japan, and may treat income derived subject to the arrangement as not derived by any participant in the arrangement. In that event, neither the arrangement nor any of the participants in the arrangement will be entitled to benefits of the Convention with respect to income derived subject to the arrangement.

(b) Nothing in the Convention shall prevent Japan from imposing tax at source, in accordance with its domestic law, on distributions that are made by a person pursuant to a sleeping partnership (Tokumei Kumtai) contract or other similar contract and that are deductible in computing the taxable income in Japan of that person.

IN WITNESS WHEREOF the undersigned, being duly authorized thereto by their respective Governments, have signed this Protocol.

DONE in duplicate at Washington this sixth day of November, 2003, in the Japanese and English languages, each text being equally authentic.

FOR THE GOVERNMENT  
OF JAPAN:

Ryozo Kato

FOR THE GOVERNMENT  
OF THE UNITED STATES  
OF AMERICA:

John W. Snow

## 米国との租税（所得）条約

二五八六

（所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の条約に関する交換公文）

（日本側書簡）

### 日本側書簡

書簡をもって啓上いたします。本使は、本日署名された所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の条約（以下「条約」という。）及び同じく本日署名され、条約の不可分の一部を成す議定書に言及するとともに、日本国政府及びアメリカ合衆国政府との間で到達した次の了解を日本国政府に代わって確認する光栄を有します。

1 条約第八条3に規定する住民税又は事業税の賦課を回避するため、合衆国政府は、合衆国の地方政府又は地方公共団体が、日本国の企業が船舶又は航空機を国際運輸に運用することによって取得する利得で、条約により連邦所得税が課されないものに対し、日本国における住民税又は事業税に類似する租税を課せうとする場合には、当該地方政府又は地方公共団体に対し当該租税を課することを差し控えるよう説得するために最善の努力を払う。

(Japanese Note)

### Translation

Washington, November 6, 2003

### Excellency:

I have the honor to refer to the Convention between the Government of Japan and the Government of the United States of America for the Avoidance of Double Taxation and the Prevention of Fiscal Evasion with respect to Taxes on Income which was signed today (hereinafter referred to as "the Convention") and to the Protocol also signed today which forms an integral part of the Convention, and to confirm, on behalf of the Government of Japan, the following understanding reached between the Government of Japan and the Government of the United States of America:

1. In order to avoid application of the local inhabitant taxes or the enterprise tax as provided for in paragraph 3 of Article 8 of the Convention, if a political subdivision or local authority of the United States seeks to levy a tax similar to the local inhabitant taxes or the enterprise tax in Japan on the profits of any enterprise of Japan from the operation of ships or aircraft in international traffic in circumstances where the Convention would preclude the imposition of a Federal income tax on those profits, the Government of the United States will use its best endeavors to persuade that political subdivision or local authority to refrain from imposing such tax.

2 恒久的施設に帰せられる利得を決定するために条約第九条1に定める原則を適用することができることが了解される。条約第七条の規定は、恒久的施設が当該恒久的施設と同一又は類似の活動を行う別個のかつ分離した企業であるとしたならば、その活動を行うために必要な資本の額と同額の資本の額を有しているものとして締約国が当該恒久的施設を取り扱うことを妨げるものではないことが了解される。締約国は、金融機関（保険会社を除く）に関して、その自己資本の額を当該金融機関の資産（危険の評価を考慮して算定した資産）のうちその各事務所に帰せられるものの割合に基づいて配分することにより、恒久的施設に帰せられる資本の額を決定することができる。

3 条約第九条に関し、二重課税は、両締約国の税務当局が移転価格課税事案の解決に適用されるべき原則について共通の理解を有している場合にのみ回避し得ることが了解される。このため、両締約国は、この問題についての国際的なコンセンサスを反映している経済協力開発機構の多国籍企業及び税務行政のための移転価格ガイドライン（以下この3において「OECD移転価格ガイドライン」という。）に従って、企業の移転価格の調査を行い、及び事前価格取決めの申請を審査するものとする。各締約国における移転価格課税に係る規則（移転価格の算定方法を含む。）は、OECD移転価格ガイドラインと整合的である限りにおいて、条約に基づく移転価格課税事案の解決に適用することができる。

4 条約第十条2及び3に関し、日本国については、配当の支払を受ける者が特定される日は、利得の分配に係る会計期間の終了の日であることが了解される。

5 条約第十一 条3(c)に関し、

(a) 「債券」には、担保が付されているか否かにかかわらず、債券、コマーシャル・ペーパー及び中期債（ミディアムターム・ノート）を含むことが了解される。

米国との租税（所得）条約

2. It is understood that the principle as set out in paragraph 1 of Article 9 of the Convention may apply for the purposes of determining the profits to be attributed to a permanent establishment. It is understood that the provisions of Article 7 of the Convention shall not prevent the Contracting States from treating the permanent establishment as having the same amount of capital that it would need to support its activities if it were a distinct and separate enterprise engaged in the same or similar activities. With respect to financial institutions other than insurance companies, a Contracting State may determine the amount of capital to be attributed to a permanent establishment by allocating the institution's total equity between its various offices on the basis of the proportion of the financial institution's risk-weighted assets attributable to each of them.

3. With reference to Article 9 of the Convention, it is understood that double taxation can be avoided only if tax authorities share a common understanding of the principles to be applied in resolving transfer pricing cases. Therefore, the Contracting States shall undertake to conduct transfer pricing examinations of enterprises and evaluate applications for advance pricing arrangements in accordance with the Transfer Pricing Guidelines for Multinational Enterprises and Tax Administrations of the Organisation for Economic Cooperation and Development (hereinafter referred to as "the OECD Transfer Pricing Guidelines"), which reflect the international consensus with respect to these issues. The domestic transfer pricing rules, including the transfer pricing methods, of each Contracting State may be applied in resolving transfer pricing cases under the Convention only to the extent that they are consistent with the OECD Transfer Pricing Guidelines.

4. With reference to paragraphs 2 and 3 of Article 10 of the Convention, it is understood that, in the case of Japan, the date on which entitlement to the dividends is determined is the end of the accounting period for which the distribution of profits takes place.

5. With reference to subparagraph (c) of paragraph 3 of Article 11 of the Convention:

(a) it is understood that the term "bonds" includes bonds, commercial paper, and medium-term notes, whether collateralized or not; and

(b) その募集が私募により行われた債券で転売制限の対象となるものは、金融市場において発行されたものとはされないことが了解される。ただし、合衆国の千九百三十三年証券法に基づいて制定された規則百四十四 A の規定又は日本国の法令における類似の規定に基づき証券登録の義務が免除される募集については、この限りでない。

6 条約第二十六条 2 にいう租税の「管理」に關与する「当局（裁判所及び行政機關を含む）」には、同条 2 にいう租税の賦課若しくは徴収、これらの租税に關する執行若しくは訴追又はこれらの租税に關する不服申立てについての決定に直接に關与する政府機關に対して法律的な助言を行うが、それ自体は当該機關の一部ではない当局を含み、合衆国については、内国歳入庁首席法務官事務所を含むことが了解される。

7 条約第二十六条 2 にいう「監督機關」には、締約国の政府の行政全般を監督する当局を含むことが了解される。

8 各締約国の権限のある当局が情報入手するための権限には、金融機關、名義人又は代理人若しくは受託者が有する情報（法律事務代理人がその職務に關してその依頼者との間で行う通信に關する情報であつて当該締約国の法令に基づいて保護されるものを除く）及び法人の所有に關する情報入手するための権限を含むこと、並びに各締約国の権限のある当局はこれらの情報を条約第二十六条の規定に基づいて交換することができることが了解される。

本使は、前記の了解がアメリカ合衆国政府により受諾される場合には、この書簡及びその旨の閣下の返簡が両政府間の合意を構成するものとみなし、その合意が条約の効力發生の時に効力を生ずるものとすることを提案する光榮を有します。

(b) it is understood that bonds that are subject to transfer restrictions applicable to private placements shall not be considered to have been issued in the financial markets. The preceding sentence shall not apply to offerings qualifying for exemption from securities registration requirements pursuant to Rule 144A promulgated under the Securities Act of 1933 of the United States or any similar provisions under the domestic law of Japan.

6. It is understood that the term "authorities (including courts and administrative bodies) involved in the administration of the taxes" as referred to in paragraph 2 of Article 26 of the Convention includes such authorities as provide legal advice to those governmental entities that are directly involved in the assessment or collection, the enforcement or prosecution in respect of, or the determination of appeals in relation to, the taxes, but are not themselves a part of such entities, and includes, in the case of the United States, the Office of Chief Counsel for the Internal Revenue Service.

7. It is understood that the term "supervisory bodies" as referred to in paragraph 2 of Article 26 of the Convention includes authorities that supervise the general administration of the government of a Contracting State.

8. It is understood that the powers of the competent authority of each Contracting State to obtain information include powers to obtain information held by financial institutions, nominees, or persons acting in an agency or fiduciary capacity (not including information relating to communications between a legal representative in its role as such and its client to the extent that the communications are protected under domestic law), and information relating to the ownership of legal persons, and that the competent authority of each Contracting State is able to exchange such information in accordance with Article 26 of the Convention.

If the foregoing understanding is acceptable to the Government of the United States of America, I have the honor to suggest that the present note and Your Excellency's reply to that effect should be regarded as constituting an agreement between the two Governments in this matter, which shall enter into force at the same time as the Convention.

本使は、以上を申し進めるに際し、ここに重ねて閣下に向かって敬意を表します。  
二千三年十一月六日にワシントンで

アメリカ合衆国駐在  
日本国特命全權大使 加藤良三

アメリカ合衆国  
國務長官 コリン・L・パウエル閣下

I avail myself of this opportunity to renew to your  
Excellency the assurance of my highest consideration.

Ryozo Kato  
Ambassador Extraordinary  
and Plenipotentiary of Japan  
to the United States of America

His Excellency  
Mr. Colin L. Powell  
The Secretary of State  
of the United States of America

米国との租税（所得）条約

（米国側書簡）

（訳文）

書簡をもって啓上いたします。本長官は、本日付けの閣下の次の書簡を受領したことを確認する光栄を有します。

（日本側書簡）

本長官は、更に、アメリカ合衆国政府に代わって前記の了解を受諾することを確認するとともに、閣下の書簡及びこの返簡が両政府間の合意を構成し、その合意が条約の効力発生の時に効力を生ずるものとすることに同意する光栄を有します。

本長官は、以上を申し進めるに際し、ここに重ねて閣下に向かって敬意を表します。

二千三年十一月六日にワシントンで

アメリカ合衆国

国務長官に代わる ジェームズ・A・ケリー

アメリカ合衆国駐在

日本国特命全権大使 加藤良三閣下

二五九〇

(U.S. Note)

Washington, November 6, 2003

Excellency:

I have the honor to acknowledge receipt of Your Excellency's note of today's date which reads as follows:

"(Japanese Note)"

I have further the honor to confirm on behalf of the Government of the United States of America that the foregoing understanding is acceptable and to agree that Your Excellency's note and this note shall be regarded as constituting an agreement between the two Governments which shall enter into force at the same time as the Convention.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

For the Secretary of State,

James A. Kelly

His Excellency  
Mr. Ryozo Kato  
Ambassador Extraordinary  
and Plenipotentiary of Japan  
to the United States of America

(参考)

この条約は、我が国と米国との間で、両国間の経済的、人的交流等に伴って発生する国際的な二重課税を可能な限り回避するとともに、二重課税が発生する場合にはこれを除去することを目的として、課税権を調整するものであり、昭和四十六年三月八日に署名された米国との租税（所得）条約（昭和四十七年二国間条約集及び条約集第二一四四号参照）に代わるものである。